

アパート団地 (集合住宅) と一戸建居住者の 居留意識に関する予備的研究

加藤 義明* 詫摩 武俊*

要 約

アパート団地に入居している人と一戸建住宅に居住している人がその居留意識においてどのような違いをもっているかを明らかにすることが本研究の目的である。この目的を追求するためにいくつかの観点から団地居住者と一戸建居住者の比較が行なわれた。調査地区が東京周辺と奄美大島名瀬市であったため、大都市居住者と地方都市居住者の比較も行なうことができた。

調査対象は東京都町田市の鶴川団地とその付近の一戸建、千葉県千葉市の花見川団地とその付近の一戸建、鹿児島県名瀬市の佐大熊団地とその付近の一戸建で各対象に対して調査用紙 150 部が配布された。結果の分析に用いられたのは最低鶴川一戸建69から最高佐大熊団地の 112 戸のデータであった。

上に述べたようにいくつかの観点から居留意識が分析されたのであるが、主な結果は次のとおりである。

1. 現住宅に対する満足度は 5 段階評定でも、100 点満点の評価でも居住形態、地区の差はあまりない。
2. しかし、団地がよいか一戸建がよいかをきくと団地住民でも約半数以上が、一戸建住民においては 97% 以上が一戸建がよいとしている。
3. 団地の住み心地をわるくしている要因としては、狭いこと、庭のないこと、生き物がかえないことが高い比率を占めている。一方、一戸建の住み心地をわるくしている要因としては、敷地が狭いこと、家のつくりが不便なこと、通勤・通学に時間がかかることが高い比率を占めている。
4. 現在の生活で一番困っていることは何かをきくと 3 地区とも子供の教育、物価の高いこと、収入の低いことが上位をしめている。住宅問題が悩みというのは花見川、鶴川の両団地住民で大都市居住者の住宅に対する悩みがみられる。
5. 自分達の生活の場をとりまく自然環境については、かなりよいという認識をもっており、住めば都的なところがうかがえる。
6. 「都会」、「いなか」、「この団地」、「この近所」などのイメージをとってみると大都市居住者と地方居住者の間にはっきりした差が示された。一般に大都市居住者の見方はつめたくてネガティブな評を行なうことが多い。
7. 大都市居住者は地方居住者に比して冷たく、援助行動をしないといわれるが、援助規範についてみるかぎり、両者の間に差はない。しかし、実際に行動として援助を行なうかときくと前者の比率は後者より低くなり、一般にいわれていることと一致する。
8. 災害で一番恐ろしいと思われているものは地震と火事であるが、団地住民は一戸建住民より地震をこわがり、一戸建住民は団地住民より火事をこわがっている。佐大熊地区の人は火事を恐れる比率が非常に高い。これは名瀬市大火を経験しているためであるかもしれない。
災害に対するそなえは具体的にはほとんど行なわれておらず、家族同志で話し合いが行なわれている程度である。また、全地区でもっと公共機関からの PR がほしいと望んでいることが明らかになった。
9. 教育やしつけについての関心は地域差、居住形態差はないが、子弟の教育については差がみられ、大都市居住者の方が、子弟に高い教育を受けさせようとしている。

* 東京都立大学都市研究センター・人文学部

10. 今回の調査結果の分析からいくつかの反省が行なわれ、次回の多摩ニュータウン調査の実施方法、分析方法の改善がなされ、なかでもアンケート項目に大きな改善が行なわれた。

はじめに

昭和31年の日本住宅公団のアパート団地建設以来20年以上を経過した今日100万戸を越える戸数の公団住宅の供給があり、更に各都道府県の住宅供給公社の鉄筋アパート、住宅建設会社、不動産会社のマンション建設を加えると莫大な鉄筋の集合住宅が建設されたことになる。庭つき一戸建住宅と異なるこの居住形態は、アメリカ、ヨーロッパのような先進国では比較的早くからあるが、我が国にあっては全く新しいものである。

いうまでもなく、この鉄筋集合住宅の建設に当っては欧米のそれを参考にしているが、我が国がもつ独自性に影響されて欧米の鉄筋アパート団地とはかなり異なる形態になっている。例えば、初期の頃の団地建設の行政的考え方は質より量ということで一戸当り14坪(2DK)かそれ以下の坪数のものがほとんどであった。団地そのものがおかれている環境も狭くて人口密度が高い。辻村ら(1963)によれば、1950年頃に建てられたアメリカ、シカゴの中心地から40km南方に建設されたPark Forest団地は一戸当りの広さが40坪で、人口密度は37人/haである(日本の団地の場合100人~300人/haである)。

日本で鉄筋の集合住宅が建設され出した頃の社会状況は、人口の都市集中化、核家族化の増大、土地の高騰、物価の高騰などがあり、加えて第2次世界大戦の戦火による家屋破壊の後遺症もあって「質より量(狭くてもよいから戸数を多くする)」という考え方にならざるを得なかったといえよう。

日本の鉄筋集合住宅が建設され出した頃の社会状況は決してよいものではなく、建設された住宅も今日から考えると劣悪なものといえるようなものであったが、そこに入居するための抽選倍率は非常に高く、30回落選の人もそう珍らしくはなかった。幸い入居できた人々は、「団地族」と呼ばれ、羨望のまなざしで見られたものである。

その後日本住宅公団をはじめとする集合住宅の建設母体は多くの形態の住宅を建設するようになった。構造的には低層、中層、高層の住宅、型式としては1Kから4LDK(日本住宅公団の場合25m²から105m²)まであり、所有権についても賃貸方式のものと分譲方式のものがある。

昭和40年代の日本経済の高度成長にともなって集合住宅の狭さが敬遠されるようになり、量から質への転換がさげられるようになった。大型の住宅が建設されるようになったのはこの頃からであり、小型のものは入居倍率

が定数に満たないという団地さえ出はじめた。また30年代に建てられた小型中心の団地のスラム化が心配されるようになったのもこの頃である。50年代に入ると経済的には低成長時代をむかえ、土地の入手難、環境整備の要請などから大都市内では建設が困難となり、都市から遠く離れた所に団地が建設されるようになった。ここに今日しばしばいわれる「遠・高・狭」の時代をむかえることになる。都市から50km以上も離れた所に建設される(例えば北坂戸団地)、10万円を越える家賃(多摩ニュータウン諏訪団地)、以前よりは広くなったものの50m²から60m²どまりという狭い間取りといった具合である。

一方、一戸建住宅におけるここ25年間の変遷はどうなっているのだろうか。平均的住宅についてみると当初一戸当りの土地面積は80坪から60坪であったものが、今日では40坪から25坪にまで低下してきており、隣家の窓同志が50cmの間隔でむき合うというような状況になってきている。プライバシーは、集合住宅の方が守れるような状態になってきており、これはECの要人のことばどおり「うさぎ小屋」といっても過言ではない。このような状態になってきた最大の原因は土地の高騰、なかでも大都市周辺の土地の高騰で、10年間に10倍になった住宅地も珍らしくはない。

集合住宅と一戸建住宅についてここ25年間に限って、その建設における量と質における変化を見ると前者より後者の方の質と量ともに著しく低下してきている。にもかかわらず、興味深いことに、今日でもアパート(集合住宅)から一戸建住宅へ移り住みたいという人の比率が高い。この原因としては日本の古来からの居住形態が庭付き一戸建であったこと、土地に対する愛着、空間居住に対する不安、狭さ、閉鎖感、近隣のトラブルなど多くの原因があるが、このような問題点は各種の要望や調査結果を生かして全般的にいうならば徐々にではあるが解消されてきているものと思われる。それに対して劣悪な一戸建住宅は今日でも次から次へと建設されていて抜本的解決は行なわれそうにない。

集合住宅出現から今日に至る変遷を簡単に見てきたが、この新しい形態の住宅に入居した人達の居住感はどうなものであったのだろうか。昭和30年代の中頃からこれに関する多くの調査が行なわれるようになった(例えば辻村ほか1960, 1963; 磯村・大塩1956; 増田1958など)。なかでも日本住宅公団の独自の調査は入居者全員に対する入居動機調査を含めて、毎年かなり精力的に意識調査を行なっており、これらの調査結果をもとにして住宅の改善が行なわれている。そして更に各種機関による社会的、心理学的調査研究が行なわれている。これらの研

究結果については、本研究とかかわりのあるものについては随時本研究の結果と比較するという形で紹介する。

目 的

上にも述べたように集合住宅住民を対象とした意識調査は既に数多く行なわれており、かなり住民の意識的側面については明らかにされている。ただこれらの研究から集合住宅住民という一般化された形のデータを取り出すことは至難のことであって各集合住宅、各団地の住民のおかれている地理、環境、社会、経済、文化、年齢、学歴等々の影響を受けた特殊なデータと考えざるを得ない。従って各研究の目的によって対象の選択が行なわれることにならざるを得ない。

本研究は53年度以降に行なわれる多摩ニュータウン総合調査の足がかりを作るために行なわれたもので集合住宅住民の居住感について基礎的なデータを得るための予備的な研究として行なわれたものである。

調査の内容は、主観的な住み心地、それを規定している要因、住宅をとりまく環境の認知のしかた、交友関係、援助観、教育観などである。

また、ほぼ同じ内容の調査を一戸建住民についても行なった。対象とした一戸建住民は今回調査対象とした集合住宅に隣接して建てられている住宅の住民である。これによって集合住宅居住者と一戸建住宅居住者の住み心地をはじめとする居住感についての比較をすることが可能となる。

今回吟味を行なうデータは東京郊外、千葉、および奄美大島名瀬市の3地点を選んで調査したものであるが、これらの団地間のデータを比較することによって団地差（居住者の差異も含めて）、地域差、大都市対地方都市の差などを明らかにできる。

本研究の根本的な目的は、先に述べたように多摩ニュータウン総合調査のためのアンケート項目の検討をはじめ、分析すべき内容と分析方法を確立することであるが、ここでの調査目的、調査内容をまとめると次のとおりである¹⁾。

A. 集合住宅住民について次の諸点を調査すること

- (1) 主観的な住み心地の測定
- (2) 住み心地を規定している要因の分析
- (3) 住宅をとりまく環境の認知のしかた
- (4) 交友関係の測定
- (5) 対人関係規範と援助行動
- (6) 住民の災害に関する意識
- (7) 住民の教育観の測定

B. 一戸建住宅住民についてAと同じ調査を行なうこと

C. Aの結果とBの結果を比較すること

D. A、およびBの諸点について3地区間の比較をする

こと

- E. A、およびBの諸点について大都市と地方都市の差異を比較すること

方 法

(1) 調査アンケート

団地調査アンケートは54項目よりなっている。フェイス・シート6項目（年齢、学歴、職業、収入、現住居の広さ、型式、階数、入居年数、以前の住いなど）のほか住み心地をはじめとする48項目である。

一戸建用調査アンケートは52項目よりなっている。内容は団地用調査アンケートに対応しているが、2項目だけ少なくなっている。

団地、一戸建両アンケートの具体的な内容は付録1、付録2に収められている。

(2) 調査対象

三つの団地とその周辺の一戸建住宅の戸主、または主婦を調査対象とした。居住者についての諸特性は後にのべるが、各地の立地条件や生活環境の概要はおおよそ次のとおりである。

鶴川団地（東京都町田市、日本住宅公団建設）

新宿より小田急線にて約30分の鶴川駅下車バス10分～15分。賃貸1682戸。2DK（45m²）～3DK（55m²）。入居開始42年12月。分譲1300戸。3DK（55m²）～3LDK（92m²）。入居開始43年5月。

花見川団地（千葉県千葉市、日本住宅公団建設）

上野より京成電鉄にて約25分の八千代台駅下車バス10分～15分。賃貸5551戸。2DK（45m²）～2LK（70m²）。入居開始43年9月。分譲1530戸。3DK（55m²）～3LDK（73m²）。入居開始43年9月。

佐大熊団地（鹿児島県名瀬市、鹿児島県・名瀬市建設）

名瀬市中心より2km、徒歩にて15分。県営、市営ともに賃貸。合計590戸。2DK（45m²）～3DK（50m²）。入居開始43年。

三つの団地はともに中心部へ通勤する人のベット・タウン的要素もっている。鶴川、花見川両団地の通勤者の通勤時間は平均1時間から1時間半、佐大熊団地のそれは15分から30分である。

(3) 調査数と回収方法

三つの団地に対して調査用紙は150部ずつ配布したが、回収されデータとして用いられたものは佐大熊で112、花見川で82、鶴川で83である。このうち佐大熊は総て賃貸住宅住民のデータであり、花見川は総て分譲のデータである。鶴川は57%が分譲、43%が賃貸のデータであった。

3団地の付近の一戸建住宅に対しても調査用紙は150部配布したが、回収されデータとして用いられたものは佐大熊で107、花見川で72、鶴川で69であった。

配布と回収に当っては佐大熊と花見川では近くの小学校に依頼して児童に依頼書と一緒に持ち帰ってもらい、回収も学校でもらった。鶴川については訪問、留置きとした。

今回のアンケートでは戸主かその妻に回答をしてもらったのであるが、結果としてはどの地区でも妻が90%以上回答していた。

結 果

(1) 各地区住民の特性

フェース・シートから得られた3団地、およびその付近のアンケートに回答してくれた一戸建住宅住民の諸特性は次のとおりであった。

表1より表6に示された各地区住民の特性について考えてみよう。表1をみると調査対象となった人達の年齢

表1 調査対象の戸主と主婦の年齢(才)

	団 地		一 戸 建	
	戸 主	主 婦	戸 主	主 婦
佐大熊	40.2	37.6	43.3	40.3
花見川	36.6	42.3	35.4	40.0
鶴 川	36.0	37.2	36.8	39.0

表2 戸主と妻の学歴(%)

		団 地		一 戸 建	
		戸 主	妻	戸 主	妻
佐大熊	小・中学校	38.9	53.0	45.7	51.0
	高 校	50.5	42.0	36.2	41.7
	短大・大学	10.5	5.0	18.0	7.3
花見川	小・中学校	9.1	6.5	18.8	20.3
	高 校	29.9	72.7	24.6	57.8
	短大・大学	61.0	20.8	56.5	21.8
鶴 川	小・中学校	2.5	6.2	4.3	8.7
	高 校	29.1	58.0	24.6	55.1
	短大・大学	68.4	33.8	71.0	36.2

表4 戸主と妻の収入(平均月収万円)

	団 地		一 戸 建	
	戸 主	妻	戸 主	妻
佐大熊	16.2	6.1	21.6	9.7
花見川	26.4	9.8	27.0	13.0
鶴 川	26.1	12.3	27.0	19.8

(妻についてはアルバイトを含めて職を持っている者の平均収入である)

表3 戸主の職業(%)

		会 社 員	会 社 役 員	技 術 ・ 専 門 職	教 員	公 社 ・ 公 団 ・ 公 務 員	サ ー ビ ス 業	工 場 生 産	自 営	他
		団 地	佐大熊	26.3	6.1	12.1	6.1	15.2	5.1	6.1
	花見川	52.6	10.5	7.9	0.0	17.1	1.3	0.0	9.2	0.0
	鶴 川	42.5	12.5	18.8	7.5	12.5	0.0	1.3	5.0	0.0
一 戸 建	佐大熊	17.7	7.3	13.5	5.2	12.5	11.5	1.0	29.2	2.1
	花見川	49.3	11.3	7.0	1.4	2.8	5.6	0.0	19.7	1.4
	鶴 川	40.6	10.1	8.7	2.9	17.4	1.4	1.4	10.1	4.3

表 5 以前の住居 (%)

	団 地							一 戸 建						
	実 家	借家(一戸建)	民間ア パート	賃貸団地(公営)	分譲 団地	持 家	他	実 家	借家(一戸建)	民間ア パート	賃貸団地(公営)	分譲 団地	持 家	他
佐大熊	5.4	43.2	13.5	17.1	0.0	12.6	7.2	6.0	35.0	18.0	7.0	0.0	29.0	5.0
花見川	6.5	19.5	29.9	23.4	1.3	1.3	18.2	6.2	12.3	4.6	29.2	10.8	23.1	13.8
鶴川	9.8	18.3	39.0	15.9	1.2	3.7	12.2	6.1	25.8	10.6	13.6	27.3	7.6	9.1

表 6 過去の引越し回数 (平均回数)

	団 地	一 戸 建
佐大熊	3.6	2.7
花見川	2.7	2.4
鶴川	2.1	2.6

が36才から40才ぐらいであることがわかる。花見川、鶴川で主婦の年齢が戸主より大きいと出ているのは、これらの団地で主婦に、戸主の妻ではなく母が入っている場合があるためと考えられる。

表2は戸主とその妻の学歴の表である。花見川と鶴川はほとんど同じパターンを示している。すなわち戸主は60%から70%が高等教育を受けており、その妻も80%から90%まで高校教育以上を受けている。佐大熊における教育程度は前二者に比較すると低く、戸主もその妻も40%から50%までは中学教育しか受けていない。大学教育は5%から20%たらずの者しか受けていない。これは全国平均から見ても低い。

戸主の職業に関しては表3のとおりである。ここでも花見川と鶴川の各種職業の就業比率は類似しているが、佐大熊のそれは異なっている。すなわち、前二者では会社員と公務員が多く、これらの人のほとんどは東京都心へ通勤しており、そのために二つの地域は典型的なベッド・タウンとなっている。一方佐大熊地区では会社員の比率は花見川、鶴川に比較すると半分かそれ以下であり(特に一戸建居住者にその傾向が強い)、その分だけ自営業が多くなっている。奄美大島における主要な産業は砂糖きびと紬であるが、都市部に近い佐大熊地区の自営

業といえばほとんどが紬生産である。戸主の職業という意味からいうならば、花見川と鶴川が同質であり、佐大熊が異質であると結論づけることができよう。

次に収入について見たのが表4である。ここでも職業の場合と同じように佐大熊と花見川、鶴川の違いが認められる。すなわち佐大熊と他地区で戸主では平均月収が5万円から10万円の差があり、妻でも3万円から5万円の差がある。一方物価についてみると奄美は離島物価といわれ、生活必需品であっても船で運ばれてくるものがほとんどで、それらはみな東京の物価と同じかそれ以上となっている。従ってこの収入の低さは直接生活にひびいてくることになる。このことは更に妻の就職、あるいはアルバイトということと関係してくる。妻が何らかの形で働いている比率をみると、佐大熊の団地で25%、一戸建で43%、花見川の団地で16%、一戸建で21%、鶴川の団地で15%、一戸建で14%で佐大熊地区の妻の就労比率が高くなっている。しかし、月収平均で見ると佐大熊地区の妻達の収入はかなり低い。

表5、表6が以前の住居と引越し回数である。以前の住宅における特徴は佐大熊では団地住民、一戸建住民ともに一戸建の借家が多く、これについて持家、民間アパートとなっている。花見川団地住民は民間アパート、賃貸団地の順、一戸建住民では賃貸団地、持家となっている。鶴川団地住民では民間アパート、一戸建借家、一戸建住民では分譲団地、一戸建借家となっている。以前の住宅については地区それぞれ異なったパターンを示していることがわかる。

過去の引越し回数については佐大熊の団地住民が平均で1回程度多いほかは、ほぼ2.5回の引越しを行っていたことがうかがえる。

(2) 現住宅に対する満足度 (住み心地)

表7～表10は団地、および一戸建住民に現在居住して

表7 住み心地に関する5段階評定

		団地					平均	一戸建					平均
		1. 快適	2. まあまあ快適	3. どちらともいえない	4. やや不快	5. 不快		1. 快適	2. まあまあ快適	3. どちらともいえない	4. やや不快	5. 不快	
佐大熊	実数	3	72	26	6	0	2.33	16	50	21	13	3	2.39
	%	2.8	67.3	24.3	5.6	0.0		15.5	48.5	20.4	12.6	2.9	
花見川	実数	5	56	10	7	0	2.24	14	47	5	5	0	2.04
	%	6.4	71.8	12.8	9.0	0.0		19.7	66.2	7.0	7.0	0.0	
鶴川	実数	6	55	14	6	0	2.25	16	42	9	1	0	1.93
	%	7.4	67.9	17.3	7.4	0.0		23.5	61.8	13.2	1.5	0.0	

表8 住み心地に関する評価(100点満点)

	団地平均	一戸建平均
佐大熊	69.68	68.41
花見川	70.94	79.28
鶴川	72.32	77.35

表10 団地生活と一戸建生活の比較

		団地住民			一戸建住民		
		団地がよい	一戸建がよい	Total	団地がよい	一戸建がよい	Total
佐大熊	実数	19	85	104	2	98	100
	%	18.3	81.7	100.0	2.0	98.0	100.0
花見川	実数	36	34	70	2	64	66
	%	51.4	48.6	100.0	3.0	97.0	100.0
鶴川	実数	35	44	79	2	65	67
	%	44.3	55.7	100.0	3.0	97.0	100.0

表9 今の住宅を出たいか

		団地			一戸建		
		出たい	出たくない	Total	出たい	出たくない	Total
佐大熊	実数	32	71	103	28	72	100
	%	31.1	68.9	100.0	28.0	72.0	100.0
花見川	実数	42	26	68	14	52	66
	%	61.8	38.2	100.0	21.2	78.8	100.0
鶴川	実数	41	38	79	14	53	67
	%	51.9	48.9	100.0	20.9	79.1	100.0

いる住宅に対する満足度を評定させたものである。表7の5段階評定で見ると、すなわちまあまあ快適のあたりにどの地区の数字も集中して、差は認められない。20年前のひばりが丘、青戸両団地のデータがあるが、やはり満足度は「2」のあたりになっている。表8の100点で評定させた結果では団地間では差は認められ

ないが、一戸建に関しては佐大熊では満足度が低く、花見川、鶴川では高いことがわかる。

表9は今の住宅を出たいか出たくないかという観点から住み心地の総合的評価を行なわせたものであるが、佐大熊団地の住民は有意に出たくないと思っており、他の団地と異なっている。一般的傾向としては、一戸建住民は団地住民より出たくないという比率が有意に多い。

表10は団地と一戸建住宅の生活を比較させた結果であるが、一戸建住民はそろって一戸建がよいと答えている。佐大熊をのぞく団地住民は団地と一戸建をよいとしたものが約半数づつであるが、佐大熊団地住民は一戸建がよいという比率が有意に高い ($\chi^2=41.9$ $P<0.1$)。このことは表3で団地を出たくないという比率が高いことと矛盾している。これは佐大熊団地住民の収入、年齢、職業などの条件によるもので、出たいけれども出られないということを反映しているものかも知れない。

(3) 居住満足度に関係のある要因

表11 満足度を引き上げている要因 (%)

	狭いこと		他家の音		通勤・通学不便		庭のないこと		つくりが不便		階段がたいへん		ベランダ狭い			
	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建		
佐大熊	61.6	31.8	5.4	13.1	8.9	15.0	64.3	/	22.3	24.3	22.3	/	37.5	/		
花見川	72.8	12.5	18.5	2.8	35.8	33.3	46.9	/	19.8	18.1	11.1	/	28.4	/		
鶴川	73.5	18.8	25.3	2.9	16.9	27.5	50.6	/	20.5	20.3	12.0	/	34.9	/		
	欠陥		音		プライバシー問題		生き物がかえない		圧迫感あり		つき合いわずらわしい		敷地が狭い		家がいたんでい	
	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建
佐大熊	7.1	/	21.4	19.6	8.0	9.3	39.3	/	5.4	/	16.1	0.9	/	38.3	/	23.4
花見川	17.3	/	8.6	5.6	4.9	2.8	32.1	/	9.9	/	1.2	5.6	/	29.2	/	4.2
鶴川	28.9	/	4.8	14.5	9.6	2.9	21.7	/	18.1	/	4.8	1.4	/	27.5	/	2.9

団地、および一戸建住民の持つ悩みを一覧表にしたのが表11である。昔からいわれているように団地にあっては部屋が狭いこと、庭のないこと、生き物がかえないことが高い率で指摘されている。一戸建住宅にあっては悩みは狭さが第一で敷地、および部屋が狭いという悩みが示されている。各地区に固有な悩みとしては花見川地区が通勤、通学に不便であること、鶴川に欠陥住宅があること、佐大熊の一戸建住宅が古くなってきていることなどをあげることができる。

入居の理由を見たのが表12である。この表で興味深いのは団地入居の理由で、大都市周辺の団地で以前の住宅よりは広くなるのでという理由が多いのに対して佐大熊ではその比率が半分以下であることである。

表13と表14は対人関係から見た住みやすさである。表

表12 入居の理由 (%)

	広くなるので		通勤便利		勤めとの関係		新築したため		土地があったため	
	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建
佐大熊	25.0	14.0	10.7	/	/	24.3	/	22.4	/	19.6
花見川	58.0	13.9	6.2	/	/	5.6	/	47.2	/	20.8
鶴川	53.0	30.4	13.3	/	/	13.0	/	33.3	/	11.6

13における各地区の住みやすさの平均はかなり住みやすいと普通の間地点にあって地区や団地、一戸建の別による差は認められない。物を借りることができるかどうか

表13 近所つき合いから見た住みやすさ (%)

	団地					一戸建				
	非常に住みやすい	かなり住みやすい	普通	かなり住みにくい	非常に住みにくい	非常に住みやすい	かなり住みやすい	普通	かなり住みにくい	非常に住みにくい
佐大熊	7.2	26.1	62.2	3.6	0.9	19.6	29.9	47.7	2.8	0.0
花見川	2.5	30.9	65.4	1.2	0.0	1.4	33.3	55.6	8.3	1.4
鶴川	8.4	38.6	48.2	4.8	0.0	5.8	43.5	49.3	1.4	0.0

表14 近所の人に物を借りられるか (%)

	団地		一戸建	
	借りる	借りない	借りる	借りない
佐大熊	81.3	18.8	84.1	15.9
花見川	66.7	33.3	63.9	36.1
鶴川	75.6	24.4	63.8	36.2

という観点から見た住みやすさは佐大熊が団地でも一戸建でも有意によい ($\chi^2=9.44 P<.01$)。このことは大都会における援助観念の低下といったことと関係があるのかも知れない。この点については再び後にふれるが、大都市周辺の住宅地区で25%から40%近くの人が近所の人に物を借りることができないとでているが、これは人

表15 現在の居住地は子供にとって住みやすいか

		団地			一戸建		
		住みやすい	住みにくい	計	住みやすい	住みにくい	計
佐大熊	実数	60	50	110	92	12	104
	%	54.5	45.5	100.0	88.5	11.5	100.0
花見川	実数	56	23	79	65	7	72
	%	70.9	29.1	100.0	90.3	9.7	100.0
鶴川	実数	63	20	83	66	3	69
	%	75.9	24.1	100.0	95.7	4.3	100.0

表17 子供の遊び場は十分だと思うか

		団地				一戸建			
		十分	やや足りない	全然足りない	計	十分	やや足りない	全然足りない	計
佐大熊	実数	13	60	39	112	23	48	33	104
	%	11.6	53.6	34.8	100.0	22.1	46.2	31.7	100.0
花見川	実数	15	40	25	80	16	46	8	70
	%	18.8	50.0	31.3	100.0	22.9	65.7	11.4	100.0
鶴川	実数	26	42	15	83	35	28	6	69
	%	31.3	50.6	18.1	100.0	50.7	40.6	8.7	100.0

表16 現在の居住地は子供の教育にとって好ましいか

		団地			一戸建		
		好ましい	好ましくない	計	好ましい	好ましくない	計
佐大熊	実数	48	58	106	76	27	103
	%	45.3	54.7	100.0	73.8	26.3	100.0
花見川	実数	35	37	72	60	10	70
	%	48.6	51.4	100.0	85.7	14.3	100.0
鶴川	実数	48	33	81	65	4	64
	%	59.3	40.7	100.0	94.2	5.8	100.0

間関係において何らかの問題があることを示しており、その原因を追求する必要があるものと考えられる。

子供を育て、教育する場として現在の居住地をどう思っているかを見たのが表15, 16, 17である。また一戸建住宅の住民に団地のことを質問した結果が表18である。

表15によると団地住民の55%~75%は団地が子供にとって住みやすいところと認識している。一戸建住民は3地区とも90%以上が、今の所が子供にとって住みやすいという認識をもっている。子供の教育という観点からみると好ましさは団地、一戸建ともに低下して団地では45%から60%が好ましいといい、一戸建住民は74%から94%が好ましいといっている。いずれの場合も一戸建住宅の方が団地に比較して住みやすい、好ましいの比率が高い。

表17は遊び場の十分さについての認識を調べたものであるが、「全く足りない」は各地区とも団地において高い率を占めている。3つの地区とも同じ小学校の学区にあ

表18 一戸建住宅住民がみた団地 (%)

	子供にとって団地は住みやすいか		子供の教育にとって団地は好ましいか		団地の遊び場は十分か		
	住みやすい	住みにくい	好ましい	好ましくない	十分	やや足りない	全く足りない
佐大熊	30.5	69.5	40.5	59.5	26.3	52.6	21.1
花見川	56.1	43.9	60.9	39.1	35.4	55.4	9.2
鶴川	55.4	44.6	63.1	36.1	39.4	45.5	15.2

る団地と一戸建住宅住民を対象として調査したものであるにもかかわらず、子供にとって一戸建の方が住みやすく、教育的にも好ましく、遊び場も多いという認識を持っている。このような認識は一戸建住宅居住者の満足度の高いこととよくマッチするものであるが、このような認識のよってきたところは、いうまでもなく実際の条件と団地、および一戸建のもつイメージの両者によって定められるものである。住んでいる人自身から見た子供の住みやすさは団地の場合55%から75%が住みやすいであるが、一戸建住宅住民から見ると団地のそれは30%から55%である。そして子供の教育という観点から見た場合、一戸建住宅住民は自分達の所をよとする率が高いが、表18から明らかなように団地に対しても佐大熊

をのぞいては、団地住民の自己評価を10%から20%もうわまわって好ましいと思っている。更に遊び場が十分にあるかということについては一戸建住宅住民は団地を高く評価しており、団地の人達の評価をはるかに越えているし、鶴川をのぞいては自分達のところよりも十分にあると評価している。このように個々の観点から評価させると一戸建住民は団地のよさをかなり認識しているようであるが、総合点としての住みやすさ、好ましさになると団地に対する評価は非常に低いものとなる。

最後に各地区の住民達にとって住宅問題は生活の中でどの程度大きな問題になっているのか、また生活の中で大きなウェイトを占めている問題は何であるかについてみよう。表19は今一番困っていることは何であるかをきいた結果である。これによると悩みの順位は各地区で多少の違いはあるが、子供の教育、物価の高いこと、収入の低さが上位を占めている。住宅問題の比率が高いのは、鶴川と花見川の2団地においてであって、同じように団地であっても佐大熊ではそれ程高率ではない。前二者で悩みの比率が高いことは大都市周辺の住宅が住民の希望にそったものではないことを示すものといえよう。

以上に住宅に対する満足感を規定する要因の分析を行ってきたが、いくつかのものは直接的な要因ではないようであるし、次に分析を行なう住宅をとりまく環境の認知のしかたや、その後で分析を試みる交友関係、他者援助の有無やそのパターンも住み心地に関係をもっていることは明らかである。

(4) 住宅をとりまく環境の認知

現居住地が子供の教育にとって適当かどうか、遊び場は十分であるかどうかということについては前項であつたが、これらの問題は環境の認知の一環としてとらえることもできる。ここでは居住地について、気候、自然環境についての認知をはじめ、都会、団地、この近所についてのイメージを測定した結果についてまとめる。

団地生活では季節感が味わえないということばを時折きくが、表20の調査結果ではそのようなことは認められ

表19 生活上一番困っていること (%)

	団地			一戸建		
	佐大熊	花見川	鶴川	佐大熊	花見川	鶴川
収入が少ないこと	26.6	23.3	17.6	18.1	12.9	12.9
物価・税金	38.3	28.3	22.1	29.8	29.0	30.6
住宅問題	9.6	18.3	23.5	14.9	3.2	6.5
自分の健康	2.1	0.0	1.5	4.3	8.1	1.6
家族の健康	2.1	5.0	0.0	2.1	3.2	9.7
子供の教育としつけ	17.0	23.3	26.5	30.9	35.5	33.9
家庭内のいさこい	3.2	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0
生きがいのなさ	0.0	0.0	1.5	0.0	3.2	3.2
勤め先の問題	1.1	1.7	5.9	0.0	4.8	1.6

表20 団地住民のもっている季節感ほか(%)

	季節感		団地の景観について		
	感じる	感じない	すばらしい	特にどうともない	味気ない
佐大熊	73.9	26.1	22.5	63.1	14.4
花見川	88.8	11.3	22.1	63.6	14.3
鶴川	81.9	18.1	28.9	50.6	20.5

表21 気候についての認知(%)

	団地					一戸建				
	非常によい	かなりよい	普通	かなり悪い	非常に悪い	非常によい	かなりよい	普通	かなり悪い	非常に悪い
佐大熊	19.8	34.2	34.2	2.7	0.0	17.8	32.7	44.9	3.7	0.9
花見川	6.3	43.8	50.0	0.0	0.0	5.6	41.7	50.0	1.4	1.4
鶴川	12.0	38.6	48.2	1.2	0.0	15.9	40.6	43.5	0.0	0.0

表22 自然環境についての認知(%)

	団地					一戸建				
	非常によい	かなりよい	普通	かなり悪い	非常に悪い	非常によい	かなりよい	普通	かなり悪い	非常に悪い
佐大熊	5.4	22.3	66.1	5.4	0.9	11.2	26.2	50.5	10.3	1.9
花見川	8.6	44.4	44.4	2.5	0.0	6.9	48.6	41.7	1.4	1.4
鶴川	15.7	47.0	37.3	0.0	0.0	26.1	43.5	29.0	1.4	0.0

ない。70%以上の方が団地生活にあっても季節感を味わっている。この季節感は植木や盆栽などをした努力の結果ではない。表23によれば団地でも一戸建でも全く同じように植木、盆栽をやっている。

次に団地の景観についてみると特にどうともないが50

表23 植木や盆栽をしているか(%)

	団地		一戸建	
	している	していない	している	していない
佐大熊	58.0	42.0	66.0	34.0
花見川	77.5	22.5	76.4	23.6
鶴川	77.1	22.9	72.5	27.5

%から60%であるが、すばらしいと味気ないを比較すると前者が後者をうわまわっている。団地は冷めたい感じということも少なくともそこの住民にとってはないことになる。

気候についても自分達の居住地の気候が悪いと思っている人はほとんどなく皆普通以上であり、表21に見るように佐大熊では非常によいが他より高率になっている。自分の居住地がよいという認知は、住めば都的な認識であるが、表22の自然環境についても認められ、団地、一戸建を通じて普通以上がほとんどである。また環境認知については同地区内であるためか、団地と一戸建の間に差が認められない。

次に「都会」、「団地」、「この近所」ということで団地住民と一戸建住民にイメージをきいた結果についてみ

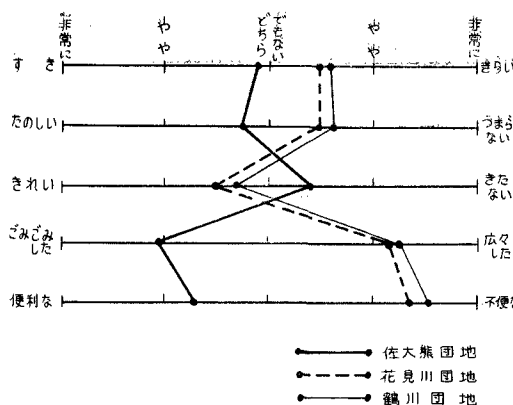


図1 「都会」のイメージ (団地住民)

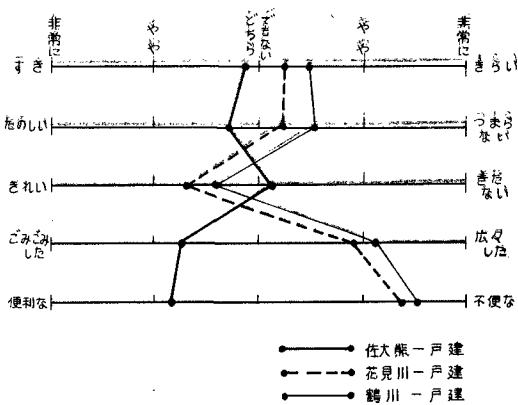


図2 「都会」のイメージ (一戸建住民)

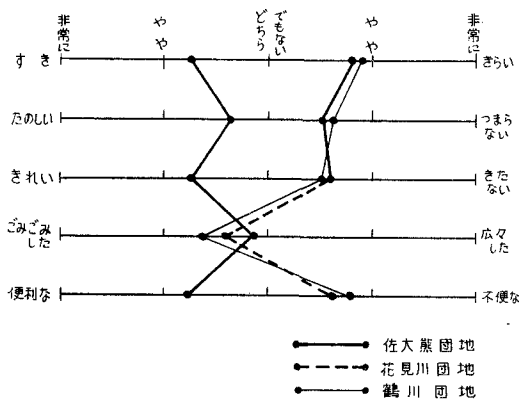


図3 「この団地」のイメージ (団地住民)

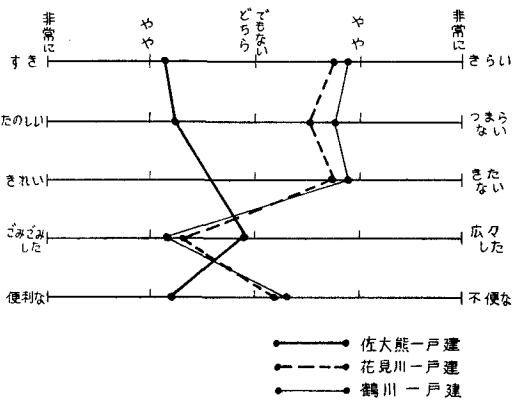


図4 「団地」のイメージ (一戸建住民)

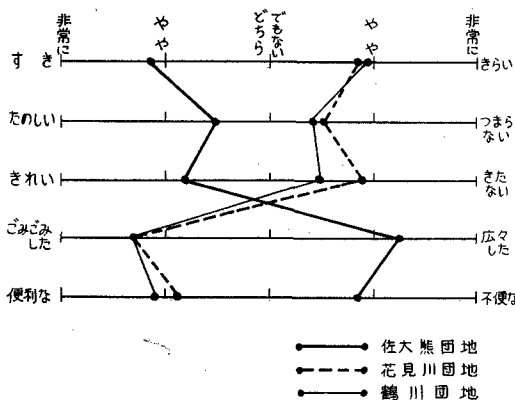


図5 「いなか」のイメージ (団地住民)

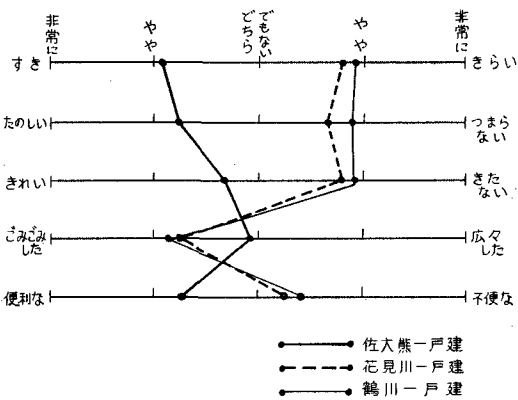


図6 「ここの近所」のイメージ (一戸建住民)

よう。図1から図6までがそれぞれのイメージである。

図1, 図2から明らかなように「都会」についてのイメージは大都市周辺の居住者と地方都市(名瀬市の人口が46,000人)周辺の居住者で全く対称的なものになっているということがわかる。すなわち, 団地か一戸建かにかかわらず花見川と鶴川住民のイメージと佐大熊の住民のイメージがグラフを逆にしたようなパターンになっている。なかでもイメージの差で大きいのは佐大熊の人が都会をゴミごみしているが便利なおとろと見ているのに対して花見川, 鶴川の住民は広々としているが不便なおとろというイメージをもっていることである。

団地についてのイメージを見たのが図3, 図4である。ここでも佐大熊(地方都市周辺)対花見川, 鶴川(大都市周辺)の住民の差が明らかに認められる。ゴミごみした—広々としたという軸だけで両者はやや近い値を示すが他では正反対の数値を示している。すなわち佐大熊住民は団地に対して「すき, たのしい, きれい, 便利」というイメージを持っているが, 花見川, 鶴川住民は, 「きらい, つまらない, きたない, 不便」というイメージを持っている。このような差は実際に団地に住んでいる人にも, 付近の一戸建に住んでいる人にも共通してもたれている点が特徴的である。

「いなか」, 「この近所」についてのイメージをきいた結果が図5, 図6である。図5では再び大都市住民と地方都市住民の差が示されている。「いなか」のイメージは団地住民だけに調査したものであるが, 大都市居住者が, 「きらい, つまらない, きたない, ゴミごみしている, 便利な」と思っているのに対して地方居住者はこれと全く反対のイメージをもっている。

一戸建居住者に「この近所」というイメージをきいたのが図6である。ここでも佐大熊対花見川, 鶴川のイ

メージ対立を見ることができる。すなわち前者にあつては, 「すき, たのしい, きれい, 広々した, 便利な」というポジティブなイメージをもっているのに対して, 後者では, 「きらい, つまらない, きたない, ゴミごみした, 不便な」というネガティブなイメージをもっている。

以上見てきたところをまとめると自分達の居住環境のうち気候や自然的環境については地域差, 居住方法(団地か一戸建か)に関係なくポジティブな評価を与えている。イメージとしての都会, 団地, いなかなどをとってみると多少の例外はあるものの大都市居住者と地方都市居住者間にはっきりした差が認められ, 前者はどのイメージについてもネガティブな評価をしている。

(5) 交友関係

団地や一戸建住宅の地域での人間関係はどのようなものであり, それはどのようにして形成されたものなのであろうか。すでに表13, 14で対人関係の点からみた団地, 一戸建の住みやすさについてみたが, 近所づき合いという意味で現住居を住みにくいと認識している人は少ない。しかし物を人から借りられるかという点(かなり親しくなっていなければできない)から見ると団地で20%から30%, 一戸建で15%から35%が近所と親しく交わっていないことが示されていた。そしてこの傾向は地方より大都市で顕著であった。

ここでは, 近所づき合いの規範, つき合いの程度, 知り合いになったきっかけをはじめ都会の人, いなかの人, この近所の人についてのイメージについて分析を行なう。

表24はつきあいの程度をきいたものである。団地住民についてみると親戚づきあいでは佐大熊で週1回ないし

表24 つきあいの程度 (%)

	佐大熊						花見川						鶴川					
	団地			一戸建			団地			一戸建			団地			一戸建		
	親戚	近所	友だち	親戚	近所	友だち	親戚	近所	友だち	親戚	近所	友だち	親戚	近所	友だち	親戚	近所	友だち
毎日のように	12.7	56.9	32.7	18.6	54.9	24.0	1.4	35.1	22.7	4.4	48.5	11.6	1.3	38.5	23.5	3.0	35.3	10.3
週一回	41.2	25.7	32.7	27.5	18.6	33.0	9.6	36.5	36.0	7.4	22.1	36.2	7.7	46.2	34.6	9.1	33.8	41.2
月一回	33.3	13.8	24.8	41.2	18.6	29.0	41.1	16.2	17.3	54.4	22.1	30.4	46.2	7.7	25.9	43.9	22.1	32.4
年一回	11.8	1.8	5.9	9.8	2.0	8.0	47.9	2.7	14.7	30.9	0.0	17.4	39.7	1.3	13.6	39.4	1.5	14.7
ほとんどなし	1.0	1.8	4.0	2.9	5.9	6.0	0.0	9.5	9.3	2.9	7.4	4.3	5.1	6.4	2.5	4.5	7.4	1.5

月1回というのが1位、2位を占めている。花見川、鶴川では年1回という比率が高くなっている。親戚つきあいの回数を規定しているのはなんといっても地理的な距離である。佐大熊にあっては親戚が近くにあるためにつきあいも多くなっているものと思われる。質問紙の41番にふるさと(実家、ないしは親戚)の距離をきいた項目があるが、佐大熊では67%が近くにあると答え、花見川、鶴川では全平均で37%しか近くにあると答えていない。一戸建住民にあってはこれと同じような傾向が認められる。次に近所つきあいについてみると佐大熊地区では団地も一戸建も毎日のようにというのが50%台であるのに大都市周辺部では花見川一戸建の48%をのぞいて総て30%台と佐大熊に比較してつきあいが少なくなっている。友だちつきあいについても平均してみるとほぼこれと同じようなことがいえる。金品をかりれるかどうかといったつきあいでも見られたが、地方住民の方が大都市住民より深く、親しく、回数も多くつきあっているということができよう。

つきあいの大切さについてきいた結果が表25である。表の数字はとても大切を5、まあ大切を4、何ともいえないを3、大事ではないを2として採点し、その平均を示したものである。この表でみると親戚つきあい、近所つきあい、友だちつきあい総て全部の地区で大切である

表25 つきあいの大切さ

		団地	一戸建	平均
佐大熊	親戚つきあい	4.64	4.64	4.64
	近所つきあい	4.47	4.52	4.50
	友だちつきあい	4.56	4.41	4.49
花見川	親戚つきあい	4.22	4.34	4.28
	近所つきあい	4.23	4.39	4.31
	友だちつきあい	4.35	4.51	4.43
鶴川	親戚つきあい	4.05	4.16	4.11
	近所つきあい	4.39	4.30	4.35
	友だちつきあい	4.53	4.62	4.58

とされている。前から指摘しているように佐大熊地区の人のつきあいの深さを反映してか、ここでも有意差には至っていないが、他の地区の大切さの数字より高い値を示している。

次に団地は人づきあいという点から考えて、一戸建住宅地のそれと異なるかどうかを聞いたのが表26である。これによると異なると思っている人の比率は33%~46%

表26 団地という環境は人づきあいという点で他(一戸建の環境)と違うか(%)

	佐大熊		花見川		鶴川	
	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建
違う	46.1	40.0	32.9	33.3	42.5	36.8
違わない	53.9	60.0	67.1	66.7	57.5	63.2

表27 一戸建の環境は人づきあいという点で他と違うか(一戸建住民のみ)(%)

	佐大熊一戸建	花見川一戸建	鶴川一戸建
違う	10.4	15.5	7.2
違わない	89.6	84.5	92.8

とかなりの高率を示している。このことは一戸建住宅が人づきあいという点で他と違うかをきいた表27と比較するとはっきりする。すなわち、一戸建住民が、自分達の住んでいる所は人づきあいで他と異なっているという認識をもっている人は3地区を通じて、わずかに7.2%から15.5%である。これらの数字から団地は、その住民も近くに住んでいる一戸建住民も、人づきあいという点でかなりの人が特別なものがあるという見方をもっているといえよう。たしかに団地における隣り近所というのは一種の運命共同体であり、好きでないからといって全く没交渉でいられるものではないし、騒音問題や子供の交友関係から大人同志が交渉をもたざるを得ないということが多い社会である。また別の観点からすれば、親しくなった場合に交渉の頻度が過度に多くなる場合も少なくない。ほぼ同程度の生活水準、全く同じタイプの住居、同じような家族構成の家庭が入居している団地は確かに人づきあいという点でも一戸建とは異なることになるかも知れない。しかし、上のような諸種の条件によって作り出された人づきあいの特殊性は、本来はそこに住んでいる人には当然の帰着として異和感を生じない筈である。一戸建住宅住民が団地の人の人づきあいを見て差異を感じるのは当然であるが、団地住民が、自分達の人づきあいは他とは異なるという認識を持つのは重要な問題をもっている。これはすぐに結びつくかどうかは別として団地居住の不適応にもからんだ問題である。

表28は親しくつきあっている人の数の平均である。佐大熊の人数はどこをとっても友人数が他より大きく、花見川が最少となっている。鶴川はこの二つの中間にあるが、地方において友人と思っている人の数が多く、大都

表28 親しくつきあっている人の数 (平均人数)

	団地		一戸建
	団地内	団地外	近所
佐大熊	7.74	11.13	8.84
花見川	5.10	3.83	4.83
鶴川	7.23	6.42	5.14

表29 最も親しい友人になったきっかけ (%)

	団地	佐大熊	花見川	鶴川	以前からの友人	子供の関係	よく顔合わせ	人の紹介	自治会サークル	家族の関係	趣味のこと	その他														
													佐大熊	16.1	45.5	42.9	0.9	8.9	8.0	4.5	0.9	花見川	3.7	61.7	21.0	3.7
佐大熊	20.6	25.2	49.5	0.0	9.3	9.3	—	6.5	花見川	12.5	61.1	25.0	1.4	13.9	5.6	—	9.7	鶴川	11.6	58.0	27.5	1.4	14.5	7.2	—	8.7

市周辺で少ないのは、今までに見てきた人間関係の一連の傾向に合致するものといえよう。この表で認められるもう一つの傾向は、団地居住者は一戸建居住者よりも友人数が多いということである。これはいうまでもなく、距離的な近さ、顔を合わせる機会の多さによるものと考えられる。

えられる。

次に最も親しい友人関係はどのようなきっかけで生じたものであるかについてみよう。表29にきっかけ別の比率が示されている。横の欄の合計のパーセントは本来であれば100%になるのであるが、二つのきっかけが複合したような場合には両者に○をつけてもらったので合計が100%を越えた。

この表で見ると佐大熊一戸建をのぞいて総ての地区で子供の関係が一番多くなっている。佐大熊一戸建ではよく顔を合わせるのが一位で子供の関係というのが、2位になっている。他の地区ではよく顔を合わせるのでは2位になっている。一戸建居住の場合には、これらに次いで以前からの友人というのが少なくないこともわかる。これは一戸建の場合に子供の関係をのぞくと人と接触する機会があまり多くないためであるかもしれない。いずれにせよ最も親しい友人を得るきっかけが子供の関係と、地理的に近い人でよく顔を合わせるのとというのは日本社会の主婦のもつ特徴といってもよいであろう。

次に「都会の人」、「いなかの人」、「団地の人」、「この近所の人」などについてのイメージを調査した結果が図7から図12に示されている。これら6つの図に示されているパターンの特徴の第一は図1から図6の場合と同じように、居住形態(団地か一戸建か)に関係なく居住地(大都市か地方都市か)によって異なるということである。

「都会の人」についてのイメージからみよう。すぎ、つきあいやすい、すばらしいでは地区、居住形態で差は認められないが、大都市住民は都会の人をセンスが悪いと思ひ、あたたかいと認識している。それに対して地方都市住民は都会人をセンスがよく、つめたいと認識している。ここで興味深いのは都会人は自分達をセンスが悪いと思っていること、一般に都会人はつめたいといわれるのに自分達をあたたかいと思っている点で地方居住者

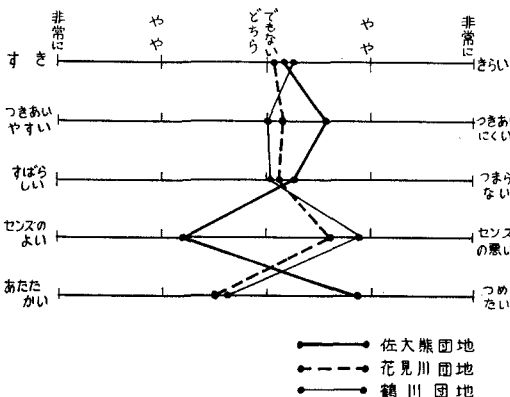


図7 「都会の人」のイメージ (団地住民)

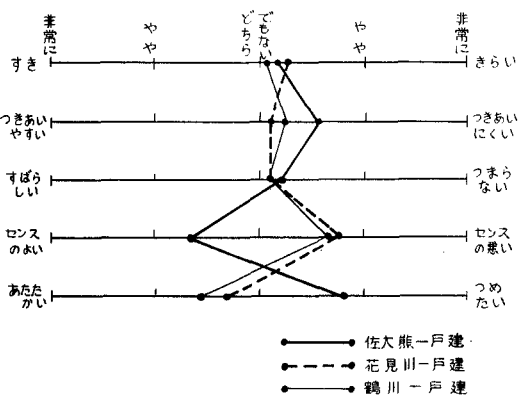


図8 「都会の人」のイメージ (一戸建住民)

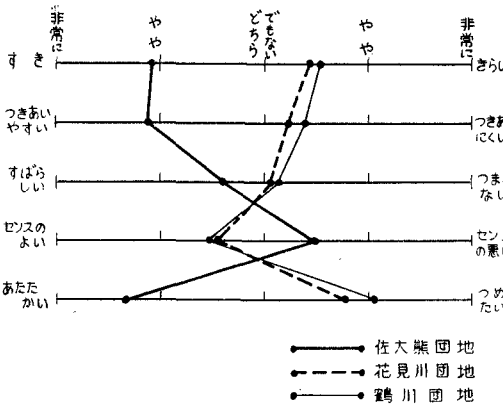


図9 「いなかの人」のイメージ (団地住民)

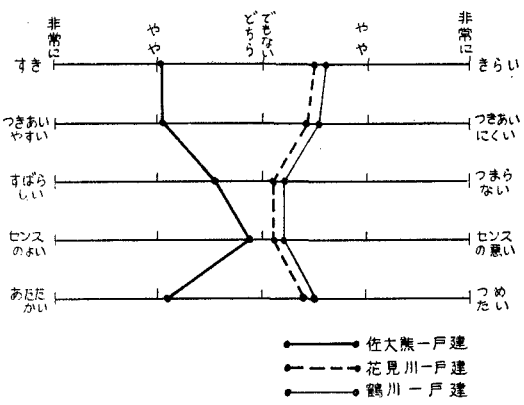


図10 「この近所の人」のイメージ (一戸建住民)

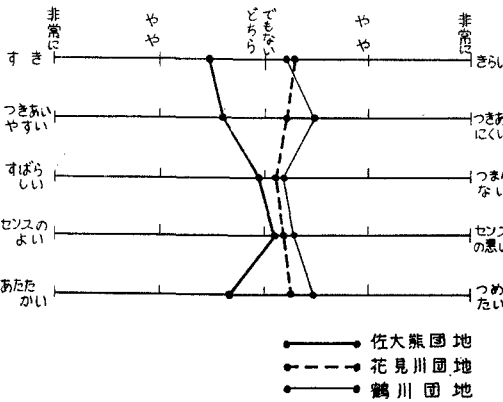


図11 「この団地の人」のイメージ (団地住民)

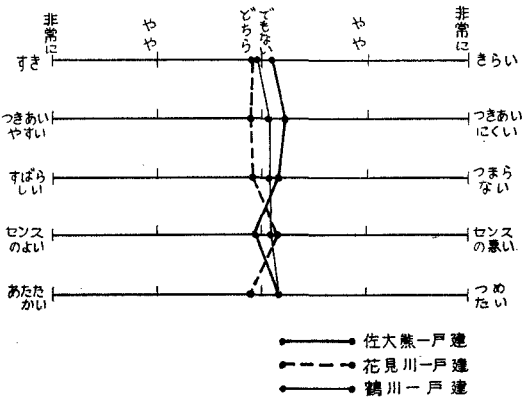


図12 「団地の人」のイメージ (一戸建住民)

と全く逆の認識をもっていることである。

「いなかの人」についてのイメージでも大都市居住者と地方都市居住者に明らかな差が認められる。地方都市居住者は「いなかの人」に対してすぎ、つきあいやすいが、センスが悪い、あたたかいというイメージをもっているが、大都市居住者はこれと全く反対のイメージをもっている。「この近所の人」についても大都市居住者は周囲に対してどちらかという冷たい認識をもっている。すなわち、きらい、つきあいにくい、つめたいといったイメージである。これは一戸建居住者についての質問であるが、団地住民に「この団地の人」のイメージをきいてもこれとはほぼ同じような結果が得られている。一戸建住民に「団地の人」のイメージをきいた場合にはイメージに分化がなく、すべての点でどちらでもないというあたりに評定されている。

これらの図を通じていえることは、地方在住者は周囲の人に対して比較的暖かいというイメージをもっているのに対して大都市在住者は比較的冷たいというイメー

ジをもっているということである。このことは図1から図6までにみた都市やいなかについてのイメージについてもいえることであった。

最後に、地域の行事や活動に参加するかどうかという観点から対人関係を見る。表30は自治会加入、自治会活

表30 居住地の行事、活動への参加 (%)

		自治会加入	自治会活動に関心あり	行事に常に参加	住民運動に関心あり	サークル活動に参加
佐大熊	団地	57.4	44.9	46.3	58.9	27.4
	一戸建	66.0	57.1	41.3	67.6	49.0
花見川	団地	97.5	30.0	8.8	48.7	27.4
	一戸建	90.3	43.1	30.6	42.0	27.1
鶴川	団地	91.6	24.4	12.2	31.6	33.8
	一戸建	83.1	25.4	13.2	47.1	25.4

動についての関心、地域の行事への参加、サークル活動への参加などについての状況である。自治会加入は大都市居住者は団地、一戸建の別なくほとんど入っている。地方都市の佐大熊では60%前後の加入率で前者にくらべてかなり低い。しかし自治会活動についての関心は佐大熊の方が多く、花見川と鶴川ではあまり高くない。行事に常に参加するか、住民運動に関心があるかも大都市住民では比率が低く、地方都市の方が比率が高い。このような数字は大都市周辺の団地や一戸建地区でのコミュニティづくりという問題として最近しばしばとりあげられている連帯感のなさを反映したものといえよう。

(6) 対人関係規範と援助行動

上にみえてきた交友関係は、大都市住民と地方都市住民の間にはっきりした差異のあることを示したが、その根底には対人関係について、こうあるべきだという各個人がもっている規範がある。この規範は親のしつけ、学校の教育、社会的学習、居住環境などによって形成されたものであるから規範と実際の対人関係、交友関係は循環的な関係にある。そこで前項でみた交友関係の根底にある規範について検討するのがここでの目的である。そして対人関係の一つの具体的なあらわれである対人援助行動をとりあげてみた。前項までに示されたデータをもとにしていくつかの予測を立ててみた。第一に地方在住者の方が周囲の人に対して暖かいということから考えて対人関係規範も暖かいのではないか。第二に行動面でも援助的行動がより多く行なわれるのではないか。第三に肉親に対しても、例えば親孝行をしなければならないなど、強い援助規範をもっているのではないか。

表31は人とはすすんで知り合いになるべきかどうかをきいたものである。この表の平均欄は、非常に反対を1とし、非常に賛成を7とした時の平均値である。これによると予測したとおり地方在住者の賛成度が高く、大

都市在住者のそれが低いことがわかる（例えば佐大熊一戸建対花見川団地の賛成度の差は有意差となっている； $t = 5.50 \quad p < .01$ ）。

表32は援助行動についての規範をきいたものである。表の数字は表31の平均と同じで非常に反対を1、どちらでもないを4、非常に賛成を7としたときの平均賛成度である。この表をみるかぎり地域差、居住形態差は認められない。すなわち、持っている援助についての規範に差はないことになる。表31でみた対人関係における規範の差とは異なり、援助規範は全く同じであることが明らかになった。

規範は各人の意識の問題であるが、具体的な行動としての援助についてはどうであろうか。いくつかの場面に

表32 援助行動についての規範

	佐大熊		花見川		鶴川	
	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建
以前に親切にしてもらった人が困っていたら助けるべきだ	6.42	6.50	6.23	6.17	6.29	6.25
人にたよられたらできるだけ助けてあげるべきだ	5.79	5.90	5.85	5.46	5.92	5.67
人は皆助け合わなければならない	6.25	6.25	6.23	6.10	5.99	6.28
不当な境遇に苦しんでいる人にはたすけを与えるべきだ	5.88	5.96	5.58	5.63	5.48	5.68

表31 人とはすすんで知り合いになるべきか (%)

		1	2	3	4	5	6	7	平均
		非常に反対	かなり反対	やや反対	どちらでもない	やや賛成	かなり賛成	非常に賛成	
佐大熊	団地	0.0	0.0	2.8	36.8	32.1	14.2	14.2	5.00
	一戸建	0.0	0.0	1.0	22.3	36.9	25.2	14.6	5.30
花見川	団地	1.3	2.6	12.8	39.7	26.9	12.8	3.8	4.42
	一戸建	0.0	4.2	5.6	43.1	34.7	11.1	1.4	4.47
鶴川	団地	0.0	4.8	8.4	39.8	34.9	7.2	4.8	4.46
	一戸建	0.0	4.3	4.3	39.1	39.1	10.1	2.9	4.55

表33 単純場面における援助行動 (%)

		道に迷っている人			夜道にうずくまっている人				ホームで眠の悪い人に手をかす		
		声をかける	たずねられれば教える	気にかける	声をかける	人をよぶ	様子をみる	何もしない	手をかす	あぶなそうになっただら手をかす	何もしない
佐大熊	団地	58.6	41.0	0.0	25.0	32.4	38.9	3.7	60.0	40.0	0.0
	一戸建	51.9	47.2	0.9	29.9	27.8	35.1	7.2	56.1	43.0	0.9
花見川	団地	43.0	55.7	1.3	22.8	20.3	41.8	15.2	33.3	66.7	0.0
	一戸建	43.1	56.9	0.0	16.7	29.2	44.4	9.7	37.5	62.5	0.0
鶴川	団地	40.7	59.3	0.0	15.0	23.8	47.5	13.8	33.7	63.9	2.4
	一戸建	40.6	59.4	0.0	16.7	33.3	34.8	15.2	27.5	72.5	0.0

表34 心理的負担をもった時の援助行動 (%)

		以前にお金をたてかえてくれた人に募金をするか			前に迷惑をかけた人の子供をあずかるか		
		募金する	趣旨をきいて考える	断わる	ひきうける	事情をきいて考える	断わる
佐大熊	団地	49.5	49.5	0.9	47.3	50.9	1.8
	一戸建	48.6	50.5	1.0	47.6	51.4	1.0
花見川	団地	20.0	78.8	1.3	50.0	47.5	2.5
	一戸建	33.3	61.1	5.6	56.9	40.3	2.8
鶴川	団地	30.1	66.3	3.6	49.4	49.4	1.2
	一戸建	29.4	70.6	0.0	44.9	52.2	2.9

ついてみよう。

表33は単純な3つの援助場面である。また表34は心理的に援助行動を行なわせるような条件をつけた場合の援助場面である(具体的な質問項目は付録1, 2を参照のこと)。

表33はほとんど負担をとまわらない単純な援助行動場面における行動の比率である。ここでは大都市対地方都市の差がはっきりと示されている。すなわち、佐大熊地区の人は団地、一戸建の居住にかかわらず他の2地区の人より声をかける、手をかすの比率が高い。また、心理的負担をもった時の援助行動についても、子供をあずかるという場面では差が認められなかったものの募金場面では上と同傾向の結果を得ている(表34)。

援助行動についての規範意識としては表32でみたように大都市、地方都市間に全く差が認められず、両者とも

困っている人は助けるべきだという意識を強くもっているが、実際行動では地方都市居住者の方が援助行動を行なう意識の強いことが示されている。

最後に親孝行についてみると親孝行をすべきかという規範については地区差、居住形態差は認められず、総てすべきであるという方向に傾いている。これは援助規範についての結果と全く同じである。

(7) 災害に関する意識

災害に関する質問項目は5つある(付録1, 2問34~38)。これらの質問に対する回答の結果をまとめたのが表35~表39である。

表35は一番恐ろしい災害は何かをきいたものであるが、地震と火事がほとんどを占めている。そして二つの傾向がはっきりと示されている。その第一は佐大熊と他の二つの地区で地震と火事が占める比率が逆転していることである。すなわち佐大熊では地震が恐ろしいというのが20%~30%で火事は50%~60%であるのに花見川、鶴川地区では地震が60%~80%を占め、火事は20%~40%である。これは名瀬市民が過去において歴史に残るような大火の経験をもっているためであるからかもしれない。第二の特徴は団地では地震が恐ろしがられ、一戸建では火事が恐れられているということである。これは、いうまでもなく団地が、鉄筋で建てられていて火には強いが地震の時に急には外に出られないということに原因があるものと思われる。

表36は大地震時の行動であるが、佐大熊の団地をのぞいて他団地では家の中でじっとしている比率が高い。これはじっとしていること以外は何もできない(中層の建物であるためすぐには外に出られないため)という現状を認識した上での行動であろう。

表37は災害に対するそなえについてきいた結果である

表35 一番恐ろしいと思っている災害 (%)

		地震	大雨	大風	土砂くず れ	洪水	火事	大雪	つなみ	他
佐大熊	団地	35.5	0.0	10.8	0.0	0.0	47.3	0.0	5.4	1.1
	一戸建	20.5	1.1	9.1	4.5	0.0	62.5	0.0	2.3	0.0
花見川	団地	75.3	0.0	0.0	0.0	0.0	23.3	0.0	0.0	1.4
	一戸建	61.9	0.0	0.0	0.0	0.0	38.1	0.0	0.0	0.0
鶴川	団地	81.5	0.0	0.0	0.0	0.0	18.5	0.0	0.0	0.0
	一戸建	66.3	0.0	1.6	1.6	0.0	27.0	0.0	0.0	1.6

表36 大地震時の行動 (%)

	佐大熊		花見川		鶴川	
	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建
家の中でじっとしている	30.9	33.0	67.5	33.3	67.5	38.2
外へとび出す	29.1	26.4	13.8	34.7	7.2	33.8
どうなるかわからない	40.0	40.6	17.5	33.8	25.3	27.9

表37 災害に対するそなえ (%)

		佐大熊		花見川		鶴川	
		団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建
そなえの有無	有	25.2	26.9	31.6	23.9	35.8	34.8
	無	74.8	73.1	68.4	76.1	64.2	65.2
話し合いの有無	有	52.4	51.0	72.4	57.7	71.3	64.7
	無	47.6	49.0	27.6	42.3	28.8	35.3

表38 災害についてのPRがほしいか (%)

	佐大熊		花見川		鶴川	
	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建
ほしい	84.7	83.7	85.0	83.1	77.5	72.1
特にはほしくない	15.3	16.3	15.0	16.9	22.5	27.9

表39 一年以内に地震がくるとしたら (%)

		引越 しを考 えら る	特 に何 もし ない	何 も考 えな い	打合 せを する	一時 移 転	水な どを 備え る	他
佐大熊	団地	17.0	2.7	63.4	8.0	8.9	0.0	
	一戸建	3.7	12.1	69.2	5.6	15.0	1.9	
花見川	団地	8.6	12.3	54.3	3.7	37.0	0.0	
	一戸建	0.0	9.7	66.7	9.7	27.8	2.8	
鶴川	団地	8.4	6.0	54.2	9.6	33.7	3.6	
	一戸建	2.9	5.8	60.1	1.4	43.5	1.4	

が、話し合いは比較的よくされているものの、具体的な備えはあまりされていないことがわかる。また話し合いは団地の方がよく行なわれており、大都市周辺の方がより多く行なわれていることも示されている。

災害時の身の処し方についてもっとPRがほしいかという質問では表38に示されているように地域差なく70%~85%という高率でPRをほしがっている。

一年以内に地震がくるとしたらどうするかという質問では、災害に対するそなえ(表37)と同じで家族と細かい打合せをするというのが55%~70%あるものの具体的な行動としてはほとんど何も行なわれないようである(表39)。

(8) 教育に関する意識

子供の教育、しつけについては、すでに表15~表19までも結果を示してある。そこでみられた傾向は子供にとって団地および一戸建は住みやすいかという質問では一戸建居住者は自分の方がはるかに住みやすく、子供の教育にとっても一戸建居住者は自分達の所の方が好ま

しいと思っている。そして子供の教育の問題は自分達の生活の中で一、二をあらそう重要なことであり、悩みでもあるということであった。

ここでは更に教育、しつけについて三つの点を補足してみることにしよう(表40~表42)。

表40 子供の教育にどの程度関心があるか(%)

		非常に強い関心がある	やや強い関心がある	普通	あまり関心がない	全く関心がない
佐大熊	団地	27.7	20.5	50.9	0.9	0.0
	一戸建	27.9	40.4	31.7	0.0	0.0
花見川	団地	13.6	30.9	53.1	2.5	0.0
	一戸建	19.7	31.0	46.5	1.4	0.0
鶴川	団地	20.8	28.0	50.0	1.2	0.0
	一戸建	17.4	39.1	43.5	0.0	0.0

表40は子供の教育についての関心の程度であるが、ここでは地域差、居住形態差は認められず、ほぼやや強い関心があるあたりになる。しつけについてもどこにも差は認められず、80%~90%の親は気をくばる方としている(表41)。

最後に子供に教育をどこまで受けさせたいかを見たのが表42である。まず地域差についてみよう。佐大熊地区

表41 しつけについて(%)

	佐大熊		花見川		鶴川	
	団地	一戸建	団地	一戸建	団地	一戸建
気をくばる方	92.8	86.5	92.4	82.9	85.4	88.2
ほっておく方	7.2	13.5	7.6	17.1	14.6	11.8

表42 将来子供にどこまで教育を受けさせたいか(%)

		長男						次男					
		義務教育まで	高校まで	専門学校まで	大学まで	大学院まで	他	義務教育まで	高校まで	専門学校まで	大学まで	大学院まで	他
佐大熊	団地	3.3	14.1	14.1	62.0	5.4	1.1	3.6	25.5	12.7	54.5	3.7	0.0
	一戸建	3.3	16.5	13.2	58.2	8.8	0.0	0.0	24.5	20.8	49.1	5.7	0.0
花見川	団地	3.5	1.8	8.9	83.9	1.8	0.0	3.3	0.0	10.0	83.3	3.3	0.0
	一戸建	0.0	5.4	3.6	73.2	12.5	5.4	0.0	11.1	3.7	77.8	7.4	0.0
鶴川	団地	1.6	1.6	6.6	78.7	8.2	3.3	0.0	4.2	4.2	87.5	4.2	0.0
	一戸建	1.9	0.0	7.4	79.6	7.4	3.7	0.0	0.0	8.3	75.0	12.5	4.2
		長女						次女					
		義務教育まで	高校まで	専門学校まで	大学まで	大学院まで	他	義務教育まで	高校まで	専門学校まで	大学まで	大学院まで	他
佐大熊	団地	6.0	27.4	27.4	36.9	0.0	2.4	4.4	28.9	37.8	24.4	0.0	4.4
	一戸建	0.0	30.2	30.2	36.0	3.5	0.0	2.0	34.0	24.0	38.0	2.0	0.0
花見川	団地	0.0	22.4	32.8	44.8	0.0	0.0	0.0	14.8	37.0	48.1	0.0	0.0
	一戸建	0.0	12.5	32.5	47.5	0.0	7.5	0.0	11.8	35.3	47.1	0.0	5.9
鶴川	団地	0.0	5.4	28.6	55.4	0.0	10.7	0.0	0.0	26.7	60.0	0.0	13.3
	一戸建	6.1	2.0	22.4	61.2	2.0	6.1	5.0	10.0	15.0	55.0	0.0	15.0

で長男について大学教育以上を望むものは65%、他地区では90%近くをしめている。次男については佐大熊では平均で50%~55%と長男よりも低下しているのに対して他の二地区では90%に近い比率は落ちていない。長女、次女に関しても大学以上の教育を受けさせるという比率は全体に低くはなっているものの長男、次男の場合と同じ傾向をもっている。居住形態の違いと子弟にどこまで教育を受けさせたいかということについては一定の傾向はみられない。

考 察

本研究はアパート団地と一戸建居住者の居注意識に関する予備的研究ということで、3団地、ならびにその周辺地区の一戸建居住者について調査した結果について分析を行なった。具体的な分析項目としては、(1)各地区住民の特性、(2)現住宅に対する満足度(住み心地)、(3)居住満足度に関する要因、(4)住宅をとりまく環境の認知、(5)交友関係、(6)対人関係規範と援助行動、(7)災害に関する意識、(8)教育に関する意識である。これらの諸点について、地域の違い(大都市周辺か地方都市周辺か)居住形態の違い(集合住宅か一戸建か)といったことを中心に分析してきた。

そしてこれらの分析を行なっている中で、質問項目の不備、調査方法の不備、分析不足など多くの問題点ができてきた。これらの多くの問題点を改善した上で新しいアンケート用紙が作られ、新しい調査方法で多摩ニュータウンの研究が行なわれたのであり、目下そのデータの分析が行なわれているところである。改善されたプロセスについては、ここでもふれるが、改善されたアンケート項目は付録3、4にあるので、これと今回のアンケート用紙(付録1、2)を比較されたい。

まず質問項目の不備についてみる。今回のアンケート用紙は、研究そのものが予備的な性格をもっていたのでかなり浅く、広くという網羅的なものになっている。そのため例えば住み心地に関する要因などは多くの要因が抜けてしまっていた。新しいアンケートでは18の要因が入れられ、すでに因子分析が行なわれたが、住み心地を規定する要因として5つの因子が抽出されている。また現在の住宅の住み心地を決定する要因には以前の住宅の住み心地が関係しているわけで、これも新しいアンケートには入れられている。

全く新しい項目としては、対人関係からみた自分の性格診断7項目、近所づきあい、大都市周辺の居住形態についての信念項目各3が入れられた。今回のアンケートでは援助行動の項目がかなり多かったが、これも援助規範意識に関する因子分析を行なって、各因子に負荷の高い項目を選択して全部で8項目とした²⁾。団地や一戸建

住宅のイメージ調査も「団地」と「一戸建」のみとして、この二項目について8つの点から評価してもらった(今回は5つ)。

次に調査方法の不備についてみる。今回の調査では鶴川地区をのぞいて各団地に隣接してたてられている小学校に依頼して児童にもちかえてもらい母親、ないしは父親にアンケートに答えてもらい、再び児童を通じて回収してもらうという方法をとった。この方法で不備であったのは、回答者が、結果としては母親がほとんどではあったものの父親のデータも混入してしまったこと、団地において分譲と賃貸の比率をコントロールできなかったこと(鶴川団地では調査員の訪問配布を行なったので分譲と賃貸の比率は約50%づつになっている。また佐大熊の団地は総て賃貸としてたてられたものであったためそれ以外のデータはとれなかった)。これらの反省にもとずいて多摩ニュータウン調査では総てアンケートは調査員の訪問配布とし、回答者は総て主婦と限定した。また調査対象とする団地は分譲一賃貸、高層(10階建以上)一中層(5階建以下)の二条件のかけあわせで4つの対象を抽出した。4つの各対象に対して75戸にアンケート用紙を配布して50戸以上の回収を目標とし、この目標は達せられた。

最後に分析不足についてみる。今回分析を行なったのは、総て団地居住か一戸建か、大都市居住か地方居住かという二点からであり、他のクロス集計は総てとりあげなかった。賃貸か分譲かという点、収入の多少、学歴の高低、団地生活の有無、過去の引越し回数、何階居住であるのか、家賃の高低、職業、家族数など住み心地や教育観、援助観などとクロスさせなければならない要因は無数ある。本研究では基礎的なデータを得ることが第一の目的であったためクロス集計については計算はされているものの考察の対象とはしなかった。多摩ニュータウン調査については上にあげた諸項目のクロス集計と、それにもとづく分析も行なう予定である。^{3) 4)}

注

- 1) 多摩ニュータウン総合調査で用いられたアンケート用紙は、本研究で用いたアンケート項目を改善して作成された。それは、付録3、付録4のとうりである。
- 2) 援助規範意識の因子分析的研究は、松井1978、1979が行なったものである。

本研究の調査は詫摩武俊教授を主任研究員とする都市研究センターAⅡ班(ほかに、今井省吾、加藤義明、三井宏隆)によって行なわれたもので、その結果を加藤がまとめた。ただし、調査の立案、実施、整理、計算にあ

たつては本間道子助手，本学大学院松井豊の両氏の援助があった。

松井 豊

1978

「大学生における援助行動の研究」都立大学修士論文。

文 献 一 覧

1979

「想定場面を用いた援助行動の研究(2)」日本社会心理学会第20会大会資料。

辻村 明，岡部慶三・藤永 保・線貫謙治

1963

『アパート団地居住者の社会心理学的研究』
日本住宅公団。

A COMPARATIVE STUDY ON SOCIAL ATTITUDES
OF APARTMENT HOUSE RESIDENTS
AND THOSE LIVING IN SEPARATE DWELLINGS

Noriaki Kato and Taketoshi Takuma.

Center for Urban Studies, Tokyo Metropolitan University

Comprehensive Urban Studies, No. 9, 1980, pp.

The aim of this study is to make a comparative study of the social attitudes held by residents of apartment houses and detached houses.

A survey of residents living in a public housing compound near Tokyo and a public housing compound near Naze City was done. Also surveyed were residents of detached houses living in these two locations.

Many differences were found to exist between the two groups concerning their social attitudes, particularly in how they felt about their present living circumstances. Differences in attitudes were also apparent between residents living in a large city and those live in a small town.

付録1 団地用アンケート用紙

(団地用)

お 願 い

私共、東京都立大学都市研究センター心理学班では、東京および地方都市における団地居住の皆様についてその居住のしかた、住みごちなどを中心にして調査をすることになりました。この計画の一環として当団地で調査をお願いすることになりました。この調査は学問的研究以外に利用するようなことは全くありませんし、個人のデータを問題にすることもありません(無記名で回答していただきます)。この点を御理解下さいまして御意見をおきかせ下さり、御協力いただければ幸いです。はなはだ勝手ではありますが、下のアンケートにできるだけ早く御回答下さいますようお願い申し上げます。(なお、御回答はできるだけ御主人様か奥様をお願い致します。)

本調査の責任者

東京都立大学心理学研究室

東京都目黒区八雲1-1-1

加 藤 義 明

ア ン ケ ー ト

1 今の住いの住み心地はどうか。住み心地を100点満点で点をつければ何点ぐらいでしょうか、○印および点数を書いて下さい。

A 1 快 適 2 まあまあ快適 3 どちらともいえない 4 やや不快適 5 不快適

B 点数をつけるとしたら 点ぐらい

2 今の住いで困った点をあげて下さい(いくつでも○印をつけて下さい)。

1 狭いこと 2 よその家の音がうるさいこと 3 通勤・通学に不便なこと 4 庭のないこと 5 部屋
のつくりが不便なこと 6 階段をのぼるのが大変なこと 7 ベランダが狭いこと 8 建物に何らかの欠陥が
あること 9 外の音がうるさいこと 10 プライバシーが守れないこと 11 生き物をかえないこと 12 圧迫
感のあること 13 となり近所とのつき合いがわずらわしいこと 14 その他()

3 今の住いの便利な点、気にいっている点をいくつかあげて下さい。

4 この団地をたいですか、でたくないですか。選んだ方の理由も簡単に書いて下さい。

1 たい(理由:)

2 でたくない(理由:)

5 あなたは団地の住いと一戸建の住いではどちらが好きですか。選んだ方の理由も簡単に書いて下さい。

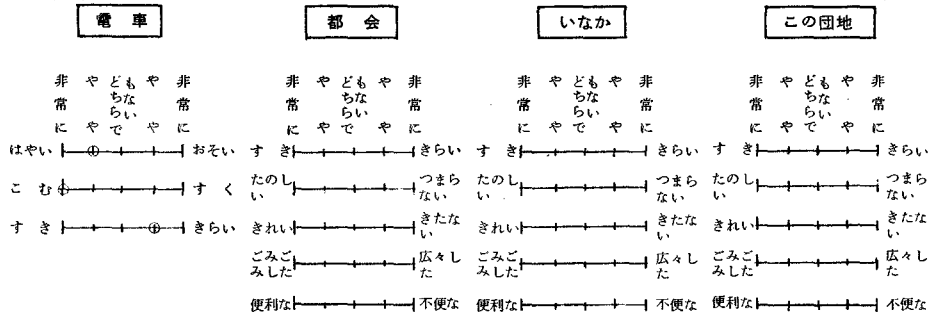
1 団 地(理由:)

2 一戸建(理由:)

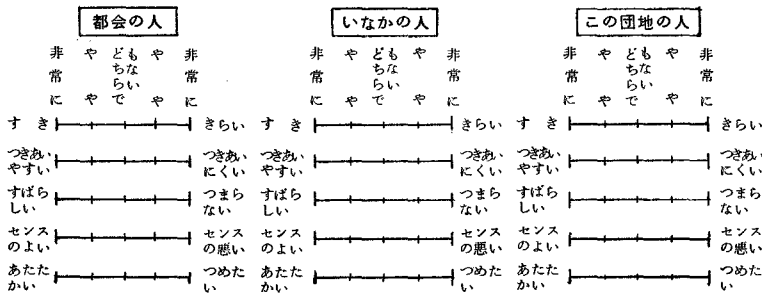
(団地用)

- 6 団地の中で生活していて季節感を感じますか。
 1 感じる 2 感じない
- 7 団地の中の景観(景色)はどんなものですか。
 1 すばらしい 2 特にどうともない 3 味気ない
- 8 一年を通じてこの土地は気候がよいと思いますか。
 1 非常によい 2 かなりよい 3 普通 4 かなり悪い 5 非常に悪い
- 9 この団地の自然環境についてはどう思いますか。
 1 非常によい 2 かなりよい 3 普通 4 かなり悪い 5 非常に悪い
- 10 お宅がこの団地に入居した理由に○印をつけて下さい。
 1 以前より広くなるので 2 家賃が安いので 3 通勤・通学に便利なので 4 部屋がきれいなので
 5 その他()
- 11 お宅で今一番困っていることは何ですか。一つだけ選んで○印をつけて下さい。
 1 収入が少ない 2 物価・税金 3 住宅問題 4 自分の健康 5 家庭の健康 6 子供の教育とし
 つけ 7 家庭内のいざこざ(トラブル) 8 生がいのなさ 9 勤め先の問題
 10 その他()
- 12 あなたは次の 中のことがらについてどんなイメージを持っていますか、例にならって○印をつけて下さい。

(例)



- 13 あなたは次の 中の人についてどんなイメージを持っていますか、上と同じように○印をつけて下さい。



(団地用)

- 23 団地は子供の教育にとって好ましい所だと思いますか。
1 好ましい 2 好ましくない
- 24 団地内の子供の遊び場は十分だと思いますか。
1 十分 2 やや足りない 3 全く足りない
- 25 お宅では将来子供にどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。子供ごとに下の()に番号を入れて下さい。
1 義務教育まで 2 高校まで 3 専門学校程度まで 4 大学まで 5 大学院まで
6 その他()
長男() 次男() 三男()
長女() 次女() 三女()
- 26 子供の教育にどの程度関心がありますか。
1 非常に強い関心がある 2 やや強い関心がある 3 普通である 4 あまり関心がない 5 全く関心がない
- 27 普段子供のしつけには気を配る方ですか。
1 気をくばる方 2 ほっておく方
- 28 あなたは市政や国の政治に関心がありますか。
1 強い関心がある 2 やや関心がある 3 やや関心がない 4 ほとんど関心がない
- 29 あなたの住んでいる市の重点政策を知っていますか。
1 知っている 2 知らない
- 30 選挙には欠かさずに行きますか。
1 ほとんど行く 2 あまり行かない 3 全く行かない
- 31 あなたの考え方は革新的な方ですか、保守的な方ですか。
1 革新的 2 保守的
- 32 あなたは新聞・テレビ・ラジオに普段1日にどの程度時間をかけていますか。

新聞を読む時間	時間	分
テレビを見る時間	時間	分
ラジオを聞く時間	時間	分

- 33 新聞で特に興味のあるのはどの面ですか。一つだけに○印をつけて下さい。
1 社会面 2 経済面 3 政治面 4 スポーツ 5 娯楽 6 婦人 7 教養
8 その他()

(団地用)

- 34 現在、あなたが一番恐ろしいと思っている災害は何ですか。
- 1 地震 2 大雨 3 大風 4 土しゃくずれ 5 洪水 6 火事 7 大雪
8 つなみ 9 その他()
- 35 大地震が起きた時、あなたはどうするだろうと思いますか。
- 1 家の中でじっとしている 2 外へとび出す 3 恐ろしくてどうするかわからない
- 36 災害にそなえてお宅では何かを用意したり 普段から家庭で話し合いをしていますか。
- A そなえがあるか 1 ある 2 ない
B 話し合い 1 している 2 していない
- 37 災害時の身の処し方についてもっと市や県や自治会などのPRがほしいですか。
- 1 ほしい 2 特にほしくない
- 38 1年以内にこの地方に大地震が来るといわれたらあなたはどうしますか。
- 1 引越しを考える 2 特に何もしない 3 その時のことを家族と細かく打合せる 4 一時どこかへ移る
5 災害時のために水や飲物の備えをする 6 その他()
- 39 植木や盆栽をしていますか。
- 1 している 2 していない
- 40 旅行やハイキングには行きますか。
- 1 よく行く 2 時々行く 3 ほとんど行かない
- 41 お宅には帰ってもよいふるさどがありますか。それは、ここから遠いですか、近いですか。
- A 帰れるふるさとは 1 ある 2 ない
B 遠さ 1 遠い 2 近い
- 42 このアンケートに答えて下さった方
- 御主人 奥様 その他()
- 43 お宅で一緒に生活している方全員について次頁の表に6つの事項を記入して下さい。
なお、(A)(B)(C)は次頁の一欄表を参考にして番号を記入して下さい。

(団地用)

	統 柄	年 齢	(A)学歴	(B)職業	通勤・通学場所	通勤・通学時間	(C)収入(月)
1	御主人						
2	奥 様						
3							
4							
5							
6							
7							

(A) 学 歴 1 小学校・中学校 2 高 校 3 高専・短大 4 大 学

(B) 職 業 1 会社員 2 会社役員 3 技術・専門職 4 教 員 5 公務員・公社・公団職員
6 サービス業 7 工場生産勤務 8 自 営 9 学 生 10 農 業
11 その他()

(C) 収 入 ① 5万円以下 ② 5万円～8万円 ③ 8万円～11万円 ④ 11万円～14万円
⑤ 14万円～17万円 ⑥ 17万円～20万円 ⑦ 20万円～23万円 ⑧ 23万円～26
万円 ⑨ 26万円～29万円 ⑩ 29万円～32万円 ⑪ 32万円～35万円
⑫ 35万円以上

44 現在の住いについて

A 広 さ 2K 2DK 3K 3DK 3LDK その他 m²
B 分譲か賃貸か 1 分 譲 2 賃 貸(家賃はどの位ですか 円)
C お宅は何階建の何階に住んでいますか 階建の 階
D 入居後何年になりますか 年

45 過去の引越し回数(独立後) 回

46 この団地に入居する以前の住い

1 妻や夫の実家 2 一戸建の借家 3 民間アパート 4 賃貸団地(公営) 5 分譲団地
6 持 家 7 その他)

47 次の方の出身地はどこですか。この団地の近くでない場合はその県名を書いて下さい。

御主人 1 この近く 2 県 市(町・村)
奥 様 1 この近く 2 県 市(町・村)

48 道に迷っている人を見つめました。あなたならどうしますか。

1 声をかけてみる 2 たずねられれば教える 3 気にかけない

49 夜、道ばたにうづくまっている男の人を見かけました。あなたならどうしますか。

1 声をかけてみる 2 誰か人をよんでくる 3 様子をみてる 4 何もしない

(団地用)

- 50 スーパーで女の人が何かを盗んだように見えました。あなたならどうしますか。
 1 その人に声をかけて注意する 2 店の人をさがして知らせる 3 店の人が近くに居たら知らせる
 4 何もしない
- 51 以前、小銭をたてかえてくれた近所の人が、ちょっとした募金にやってきました。あなたならどうしますか。
 1 募金する 2 趣旨と金額をたずねて考える 3 断わる
- 52 眼の不自由な人がホームで電車に乗ろうとしています。周囲の人は手をかそうとしません。あなたならどうしますか。
 1 声をかけて手をかす 2 様子を見て、あぶなそうになったら手をかす 3 何もしない
- 53 昨夜、あなたは大きな物音をたてて、隣の人に迷惑をかけてしまいました。けさ、その隣の人が「30分位子供を預って下さい。」と頼んできました。あなたならどうしますか。
 1 ひきうける 2 相手の事情をきいて考える 3 ことわる
- 54 あなたは次の意見にどの程度賛成でしょうか。あてはまる所に○印をつけて下さい。

非	か	や	ど	や	か	非
常	な	や	ち	や	な	常
に	り	や	ら	や	り	に
賛	賛	賛	も	反	反	反
成	成	成	な	対	対	対
			い			

- | | |
|--|-------|
| 1 他人とはすすんで知り合いになるべきである | _____ |
| 2 自分の身が不利になってまで弱い人を救う必要はない | _____ |
| 3 教人の仲間のうちで、ひとりだけが得をするのは、よくないことだと思う。 | _____ |
| 4 人から「おせっかい」と言われるような事はするべきではない | _____ |
| 5 人を助ける場合は、返礼を期待してはいけない | _____ |
| 6 以前親切にしてもらった人が、現在困っていたら手助けをしてあげるべきである | _____ |
| 7 人にたよられたら、できるだけ助けてあげるべきである | _____ |
| 8 他人の家庭の事には口だししない方がよい | _____ |
| 9 不当な境遇に苦しんでいる人には、たすけを与えるべきである | _____ |
| 10 人は皆親孝行をすべきである | _____ |
| 11 人は皆助け合わなければならない | _____ |

付録2 一戸建用アンケート用紙

(一戸建用)

お 願 い

私共、東京都立大学都市研究センター心理学班では、東京および地方都市に居住の皆様についてその居住のしかた、住みごころなどを中心にして調査をすることになりました。この計画の一環としてお宅様にも調査をお願いすることになりました。この調査は学問的研究以外に利用するようなことは全くありませんし、個人のデータを問題にすることもありません（無記名で回答していただきます）。この点を御理解下さいまして御協力いただければ幸いです。はなはだ勝手ではありますが、下のアンケートにできるだけ早く御回答下さいますようお願い申し上げます。（なお、御回答はできるだけ御主人様か奥様をお願い致します。）

本調査の責任者

東京都立大学心理学研究室

東京都目黒区八雲 1-1-1

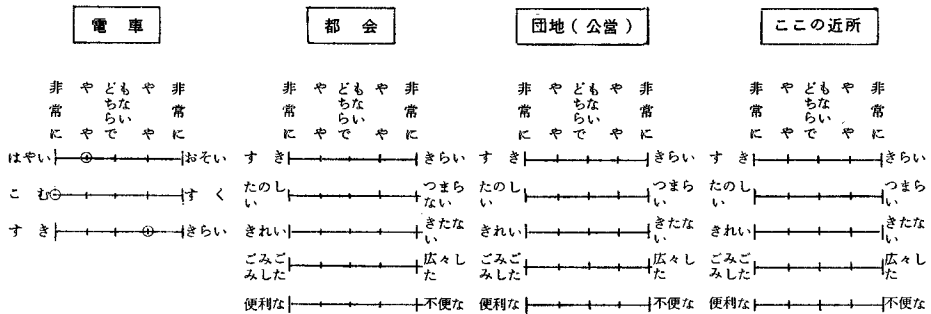
加 藤 義 明

ア ン ケ ー ト

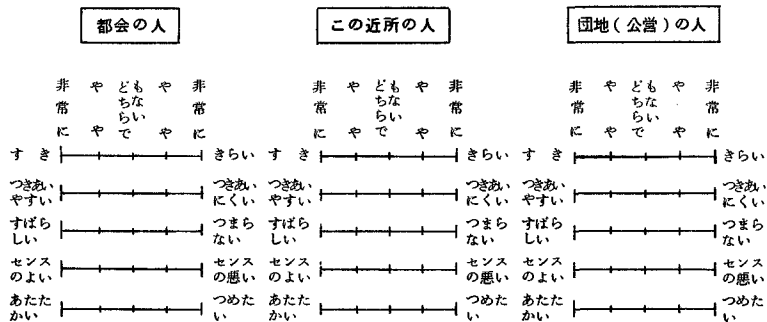
- 1 今の住いの住み心地はどうか。住み心地を100点満点で点をつければ何点ぐらいでしょうか。適当な所に○印、および点数を書いて下さい。
- A 1 快適 2 まあまあ快適 3 どちらともいえない 4 やや不快 5 不快
- B 点数をつけるとしたら 点ぐらい
- 2 今の住いで困った点をあげて下さい（いくつでも○印をつけて下さい）。
- 1 狭いこと 2 よその家の音がうるさいこと 3 通勤・通学に不便なこと 4 敷地が狭いこと
5 部屋の作りが不便なこと 6 家が古くなっていたんていること 7 外の音がうるさいこと
8 ブライバナーが守れないこと 9 となり近所とのつきあいがわずらわしいこと 10 近所とのつきあいがなくてさびしいこと 11 その他()
- 3 今住んでいる家から引越したいですか。選んだ方の理由も簡単に書いて下さい。
- 1 でたい(理由:)
- 2 でたくない(理由:)
- 4 あなたは団地(公営の鉄筋アパート)に住んだことがありますか。
- 1 ある 2 ない
- 5 団地に住んだ方は、その時のことを思いだして、また住んだことのない方は想像で結構ですが、団地の生活は味気のないものだと思いますか。また、団地の住いと一戸建の住いとはどちらが好きですか。
- A 団地の生活 1 味気ない 2 快適
- B どちらが好きか 1 団地 2 一戸建

(一戸録用)

- 6 一年を通じてこの土地は気候がよいと思いますか。
 1 非常によい 2 かなりよい 3 普通 4 かなり悪い 5 非常に悪い
- 7 お宅の住いのまわりの自然環境はよいでしょうか、悪いでしょうか。
 1 非常によい 2 かなりよい 3 普通 4 かなり悪い 5 非常に悪い
- 8 お宅がこちらに越された理由
 1 以前より広くしたかったので 2 勤めの関係で 3 新築したので 4 家賃が安いので
 5 土地があったので 6 その他()
- 9 お宅で今一番困っていることは何ですか。一つだけ選んで○印をつけて下さい。
 1 収入が少ない 2 物価・税金 3 住宅問題 4 自分の健康 5 家族の健康 6 子供の教育とし
 つけ 7 家庭内のいざこざ(トラブル) 8 生がいのなさ 9 勤め先の問題
 10 その他()
- 10 あなたは次の の中のことがらについてどんなイメージを持っていますか。例にならって○印をつけて下さい。
 (例)



- 11 あなたの次の の中の人についてどんなイメージを持っていますか。上と同じように○印をつけて下さい。



(一戸建用)

- 12 お宅は自治会に入っていますか。また自治活動や町内の行事、住民運動に関心がありますか。
- A 自治会に 1 入っている 2 入っていない
- B 自治活動に 1 関心あり 2 あまり関心なし
- C 町内の行事に 1 参加する 2 時々、ものによっては参加する 3 参加しない
- D 住民運動に 1 関心あり 2 関心なし
- E 町内のサークル活動に 1 参加している 2 参加していない
- 13 この町内の住民の希望は市政の中でいかされていると思いますか。
- 1 いかされている 2 わからない 3 いかされていない
- 14 近所づきあいという意味から、ここは住みやすいですか、住みにくいですか。
- 1 非常に住みやすい 2 かなり住みやすい 3 普通 4 かなり住みにくい 5 非常に住みにくい
- 15 ちょっとお金を借りたり、みそ、しょう油を借りたりできる家が近所にありますか。
- 1 ある 2 ない
- 16 親戚づきあい、近所づきあい、友だちづきあいなどの大切さはどのくらいだと思いますか。下の表の中にそれぞれどこかに○印をつけて下さい。また、普通その人たちとの程度つきあっていますか。

(つきあいの大切さ)

	親戚づきあい	近所づきあい	友だちづきあい
とても大切			
まあ大切			
何ともいえない			
大事ではない			
分らない			

(つきあいの程度)

	親 戚	近 所	友 だ ち
毎日のように			
週 1 回			
月 1 回			
年 1 回			
ほとんどなし			

- 17 この近所の友だちはどのようにしてできましたか。最も親しい人について○印をつけて下さい。
- 1 ここに入居する以前からの友人 2 子供の関係で 3 よく顔を合わせるので 4 人の紹介で
- 5 自治会やサークルで一緒になって 6 子供以外の家族の関係で
- 7 その他()
- 18 この近所の人づきあいはよそと違うと思いますか。また想像でよいのですが、団地(公営アパート)の人づきあいはよそと違うと思いますか。
- A この近所 1 違 う 2 普 通
- B 団 地 1 違 う 2 普 通
- 19 この近所で親しくつきあっている人の人数 約 人
- 20 子供にとってこの近所は住みやすいと思いますか。また子供にとって団地はどうだと思いますか。
- A この近所 1 住みやすい 2 住みにくい
- B 団 地 1 住みやすい 2 住みにくい

(一戸建用)

- 31 新聞で特に興味のあるのはどの面ですか。一つだけ○印をつけて下さい。
- 1 社会面 2 経済面 3 政治面 4 スポーツ 5 娯楽 6 婦人 7 教養
8 その他()
- 32 現在あなたが一番恐ろしいと思っている災害は何ですか。
- 1 地震 2 大雨 3 大風 4 土しゃくずれ 5 洪水 6 火事 7 大雪
8 つなみ 9 その他()
- 33 大地震が起きた時、あなたはどうするだろうと思いますか。
- 1 家の中でじっとしている。 2 外へとび出す 3 恐ろしくてどうなるかわからない
- 34 災害にそなえてお宅では何かを用意したり、普段から家庭で話し合いをしていますか。
- A そなえがあるか 1 ある 2 ない
B 話し合い 1 している 2 していない
- 35 災害時の身の処し方についてもっと市や県や町会のPRがほしいですか。
- 1 ほしい 2 特にはほしくない
- 36 1年以内にこの地方に地震がくるといわれたら、あなたはどうしますか。
- 1 引越しを考える 2 特に何もしない 3 その時のことを家族と細かく打ち合わせる 4 一時どこかへ移る
5 災害時のために水や飲物の備えをする 6 その他()
- 37 植木や盆栽をしていますか。
- 1 している 2 していない
- 38 旅行やハイキングには行きますか。
- 1 よく行く 2 時々行く 3 ほとんど行かない
- 39 お宅には休日などに帰ることができる、ふるさとがありますか。あるとすれば遠いですか。
- A 帰れるふるさとは 1 ある 2 ない
B 遠さ 1 遠い 2 近い
- 40 このアンケートに答えて下さった方
御主人 奥様 その他()
- 41 お宅で一緒に生活している方全員について次頁の表に6つの事項を記入して下さい。
なお、(A)(B)(C)は次頁の一欄表を参考にして番号で記入して下さい。

(一戸建用)

	続柄	年齢	(A)学歴	(B)職業	通勤・通学場所	通勤・通学時間	(C)収入(月)
1	御主人						
2	奥様						
3							
4							
5							
6							
7							

(A) 学歴 1 小学校・中学校 2 高校 3 高専・短大 4 大学

(B) 職業 1 会社員 2 会社役員 3 技術・専門職 4 教員 5 公務員・公社・公団職員
6 サービス業 7 工場生産勤務 8 自営 9 学生 10 農業
11 その他()(C) 収入 ① 5万円以下 ② 5万円～8万円 ③ 8万円～11万円 ④ 11万円～14万円
⑤ 14万円～17万円 ⑥ 17万円～20万円 ⑦ 20万円～23万円 ⑧ 23万円～
26万円 ⑨ 26万円～29万円 ⑩ 29万円～32万円 ⑪ 32万円～35万円
⑫ 35万円以上

42 現在の住いについて

- A 広さ 部屋(但し台所を入れない) ㎡(全体で)
- B 持ち屋か借家か 1 持ち家 2 借家
- C 平屋か二階建か 1 平屋 2 二階建
- D 入居後何年か 年
- E 建築後何年か 年

43 過去の引越し回数(独立後) 回

44 ここに引越す前の住い

- 1 妻や夫の実家 2 一戸建借家 3 民間アパート 4 賃貸団地(公営) 5 分譲団地(公営)
- 6 持家 7 その他()

45 次の方の出身地はどこですか。この近くでない場合は、その県名も書いて下さい。

- 御主人 1 この近く 2 県 市(町・村)
- 奥様 1 この近く 2 県 市(町・村)

46 道に迷っている人を見かけました。あなたならどうしますか。

- 1 声をかけてみる 2 たずねられれば教える 3 気にかけない

47 夜、道ばたにうづくまっている男の人を見かけました。あなたならどうしますか。

- 1 声をかけてみる 2 誰か人をよんでくる 3 様子のみてみる 4 何もしない

付録3 多摩ニュータウン調査 団地用アンケート用紙

住宅に関する調査

① ② ③ ④ ⑤

調査にご協力をお願い

私共 東京都立大学 都立研究センター心理学班では多摩ニュータウンおよびその近辺に居住している方々について その居住のしかた・住み心地などを中心として調査することになりました。この計画の一環としてお宅様にも調査をお願いすることになりました。先日お手紙でもお願いしましたようにこの調査は学問的研究以外の目的に利用することは全くありませんし、個人のデータを問題にすることもありません。(無記名で回答していただきます)この点をご理解下さいますと御協力いただければ幸いです。

なお この調査の御回答は 奥様 にお願ひ致します。御記入下さいました調査票は8月末日までに御郵送いただくか9月__日にまた調査員が伺いました時に回収させていただきます。

— 本調査の責任者 —

東京都立大学 人文学部心理学研究室

東京都目黒区八雲1の1の1

電話 03-717-0111

加 藤 義 明

Q 1. お宅がこのお住いに入居された理由は何ですか 次の項目のうち最も大きな理由 1 つに○印をつけて下さい

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1. いままでの住いより広さ、設備、間取りが良くなるので | 6. 自然環境が良いので |
| 2. 家賃が手頃なので | 7. なじみのある土地なので |
| 3. 通勤に便利なので | 8. 何となく |
| 4. 会社があっせんしてくれたので | 9. その他 () |
| 5. 生活環境が良いので | |

ここには記入しないで下さい

⑥

⑦

Q 2. 現在のお住いと以前のお住いについていろいろな点から住み心地はいかがですか 例に従って現在のお住いと以前のお住いについて各項目 (1~19) について当てはまる個所に○印をつけて下さい

	現在のお住い	以前のお住い		
	満 足	や や 満 足	ど ち ら だ も な い	や や 不 満 足
	不 満 足	満 足	ど ち ら だ も な い	や や 不 満 足
	不 満 足	満 足	ど ち ら だ も な い	不 満 足
(例) 町内会・団地の管理について	_____	①	→	① _____
(1) 家賃または購入費について	_____		→	_____
(2) 家の広さについて	_____		→	_____
(3) 間取りについて	_____		→	_____
(4) 隣り近所の家からの騒音について	_____		→	_____
(5) 道路や外からの騒音について ...	_____		→	_____
(6) 自然環境について	_____		→	_____
(7) 眺望について	_____		→	_____
(8) 通勤時間について	_____		→	_____
(9) 買物について	_____		→	_____
(10) 公共施設 (病院 郵便局等)	_____		→	_____
(11) 文化施設 (集会所 公園 図書館) ...	_____		→	_____
(12) 最寄りの駅からの距離	_____		→	_____
(13) 日照について	_____		→	_____
(14) 近所づきあいについて	_____		→	_____
(15) 場所 土地柄のイメージ	_____		→	_____
(16) 防犯の安全性について	_____		→	_____
(17) 災害上の安全性について	_____		→	_____
(18) プライバシーを守る	_____		→	_____
(19) 総合的な住み心地	_____		→	_____

⑧ ⑲

⑨ ⑳

⑩ ㉑

⑪ ㉒

⑫ ㉓

⑬ ㉔

⑭ ㉕

⑮ ㉖

⑯ ㉗

⑰ ㉘

⑱ ㉙

㉚ ㉛

㉜ ㉝

㉞ ㉟

㊱ ㊲

㊳ ㊴

㊵ ㊶

㊷ ㊸

㊹ ㊺

Q 3. 今のお住いについて不満な点がありますか 不満と思う点を下から選び番号に○印をつけて下さい

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1.階段やエレベーターを使用すること | 5.生き物(ペット等)が飼えないこと |
| 2.ベランダが狭いこと | 6.圧迫感があること |
| 3.建物に何らかの欠点があること | 7.その他 |
| 4.庭のないこと | |

ここには記入しないで下さい

46

Q 4. 今のお住いを出たいですか それとも出たくないですか 下の項目のうち当てはまる番号に1つ○印をつけて下さい またなぜそうしたいのか理由も簡単に書いて下さい

- | |
|-----------------------|
| 1.このままでよい |
| 2.今の住いを出たいがこの土地には住みたい |
| 3.今の住いを出て他の土地に移りたい |
| 理由 () |

47

48

Q 5. やがては一戸建を建てたいですか

- | | | |
|----------|----------------|----------------|
| 1.ぜひ建てたい | 2.どちらかといえば建てたい | 3.特に建てたいとは思わない |
|----------|----------------|----------------|

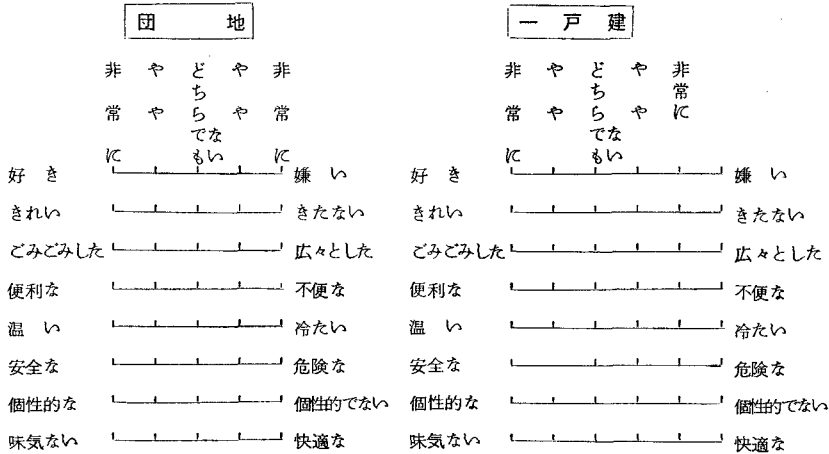
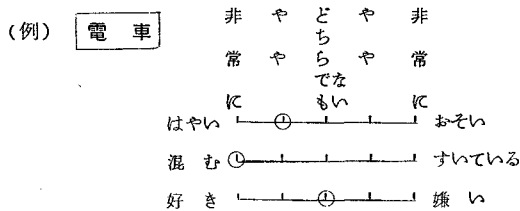
49

Q 6. 今後東京近辺の住宅はどうあるべきだと思いますか あなたの考えに一番近いものに1つ○印をつけて下さい

- | |
|----------------------------------|
| 1.団地・マンションのような集合住宅にすべきである |
| 2.狭くてもよいから便利なところに一戸建の住宅にすべきである |
| 3.通勤に時間がかかっても郊外に適当な広さの一戸建にすべきである |

50

Q 7. 団地と一戸建の住いについて どのようなイメージをお持ちですか 例にならって適当な個所に○印をつけて下さい



51 59
 52 60
 53 61
 54 62
 55 63
 56 64
 57 65
 58 66

Q 8. あなたは「近所づきあい」についてどのようにお考えですか 以下の項目の中から1つだけ選び○印をつけて下さい

ここには記入しないで下さい

- | |
|---|
| 1.同じ場所に住んでいる者同士が近所づきあいをするのは当然 |
| 2.何か緊急なことがあったときつきあいがないと不便だから普段から近所づきあいはした方がよい |
| 3.近所づきあいはわずらわしいからなるべくしない方がよい |

67

Q 9. あなたは自治会の活動や団地の行事に関心がありますか または参加していますか

- | | | |
|-----------|----------|------------------|
| A 自治会に | 1.入っている | 2.入っていない |
| B 自治会活動に | 1.関心がある | 2.あまり関心がない |
| C 団地内の行事に | 1.参加する | 2.時々、ものによっては参加する |
| | 3.参加しない | |
| D 住民運動に | 1.関心がある | 2.関心はない |
| E サークル活動に | 1.参加している | 2.参加していない |

68

69

70

71

72

Q 10. あなたはこの団地内で親しくつき合っている方が何人位おられますか () 人

73 74

人

Q 11. もっとも親しくしている方とのきっかけは何でしたか 以下の中で当てはまる番号に1つ○印をつけて下さい

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1.団地入居以前からの友人 | 5.自治会やサークルで一語になって |
| 2.子どもの関係で | 6.子ども以外の家族の関係で |
| 3.よく顔を合せるので | 7.共通の趣味で |
| 4.人の紹介で | 8.その他 () |

75

Q 12. あなたの“隣り近所は”とたずねられたとき あなたはどの範囲の人を思い浮かべますか 当てはまるもの1つに○印をつけて下さい

- | |
|------------------------------|
| 1.自分の住いの上・下階と左右どなり などごく近くの人々 |
| 2.同じ戸口・同じエレベーターを利用しあう人々 |
| 3.同じ棟の人々 |
| 4.自分の棟ととなりの棟の人々 |
| 5.自分の棟とその周囲の棟の人々 |
| 6.自分の団地の人々 |

76

Q 13. あなたは次のような場合に会ったらどのようにしますか 各項目についてあなたがするだろうと思う番号に○印をつけて下さい

A 夜 道ばたにうずくまっている男の人をみかけました あなたならどうしますか

77

- | | | | |
|-----------|-------------|----------|---------|
| 1.声をかけてみる | 2.誰か人をよんでくる | 3.様子を試みる | 4.何もしない |
|-----------|-------------|----------|---------|

B スーパーで女の人が何かを盗んだように見えました あなたならどうしますか

78

- | | |
|------------------|----------------|
| 1.その人に声をかけて注意する | 2.店の人をさがして知らせる |
| 3.店の人が近くに居たら知らせる | 4.何もしない |

C 以前、小銭をたてかえてくれた近所の人が ちょっとした募金にやってきた あなたならどうしますか

- 1.募金する 2.趣旨と金額をたずねて考える 3.断わる

D 眼の不自由な人がホームで電車に乗ろうとしています 周囲の人は手をかそうとしません あなたならどうしますか

- 1.声をかけて手をかす 2.様子を見てあぶなそうになったら手をかす
3.何もしない

Q14. あなたは次の意見にどの程度賛成でしょうか あてはまる所に○印をつけて下さい

非	か	や	ど	や	か	非
常	な	や	ち	や	な	常
に	り	や	ら	や	り	に
賛	賛	賛	ど	反	反	反
成	成	成	ち	対	対	対
			ら			
			でも			
			ない			

- 1.他人とはすすんで知り合いになるべきである _____
- 2.他人の家庭の事には口だししない方がよい _____
- 3.不当な境遇に苦しんでいる人には たすけを与えるべきである _____
- 4.“恩”という考えは時代遅れだと思ふ _____

Q15. あなたは普段人とどのようなつきあい方をしておりますか 以下の項目について当てはまるところに○印をつけて下さい

	はい	どちらともいえない	いいえ
1.新しい友人を作るのに骨が折れる	1	2	3
2.人とつき合うより一人で何かをする方が好きである	1	2	3
3.新しい職場や環境にすぐ慣れる方である	1	2	3
4.いつも自分で話すより聞き手にまわる方である	1	2	3
5.自分は話し好きな方だと思ふ	1	2	3
6.いろいろ人との交際ができなくなったらつらいと思ふ	1	2	3
7.ふだん人づきあいのよい方だと思ふ	1	2	3

Q16. あなたは現在の生活全般についてどの程度満足していますか

- 1.非常に満足している 2.かなり満足している 3.どちらとも云えない
4.少し不満がある 5.非常に不満である

ここには記入しないで下さい

79

80

①②③④⑤

⑥

②

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

F 1. 今の住宅についておろかがいします

A 管理の主体は何ですか

- 1. 都営
- 2. 公団 (賃貸)
- 3. 公団 (分譲)

B 住宅の型態は何ですか

- 1. 2DK
- 2. 3K
- 3. 3DK
- 4. 3LDK
- 5. 4LDK
- 6. 老人向住宅

C 入居されてどの位経ちますか

およそ _____ 年

D お住いの棟の高さはどのぐらいですか また何階のどの部屋に住んでおられますか

- 1. テラスハウス
- 2. 中層 (5階まで)
- 3. 高層 (6階以上)

何階ですか _____ 階 _____ 号の部屋

F 2. 前に住んでいた住宅についておろかがいします

A 前の住宅の所在地 (区・町・村まで書いて下さい)

_____ (都・県) _____ (市・区・郡) _____ (町・村)

B それはどのような種類の家でしたか

- 1. 親の家に同居
- 2. 間借・下宿・寮
- 3. 持家
- 4. 民間借家 (一戸建)
- 5. 民間賃貸アパート
- 6. 公営住宅
- 7. 公社公団賃貸住宅
- 8. 社宅・公務員住宅
- 9. その他

F 3. 今まで団地に住まわれた経験がありますか

- 1. ある
- 2. ない

F 4. お宅の世帯主 ご主人の勤務先はどちらですか

- 1. ニュータウン内 (自宅を含む)
- 2. 多摩・八王子・稲城・町田市
- 3. 府中 調布 狛江 立川 日野市
- 4. その他の三多摩
- 5. 東京23区
- 6. その他東京都以外

F 5. 世帯主あるいはご主人の職業は何ですか

- 1. 事務系 勤め人
- 2. 技能 労務系勤め人
- 3. 技術系勤め人
- 4. 専門職 自由業
- 5. 管理職 (課長以上)
- 6. 自営業
- 7. その他 ()

F 6. あなたは仕事をお持ちですか

- 1. ない (主婦専業)
- 2. 決まった仕事を持っている
- 3. パートで仕事をしている

F 7. ご主人及びあなたの最後に卒業された学校は何ですか

A ご主人

- 1. 小学校
- 2. 中学校
- 3. 高校
- 4. 短期大学専門学校
- 5. 大学

ここには記入しないで下さい

19

20

21 22

年

23

24 25

階

26 27 28

号

29 30

31

32

33

34

35

36

B あなた

- | | | | | |
|--------|--------|-------|-------------|-------|
| 1. 小学校 | 2. 中学校 | 3. 高校 | 4. 短期大学専門学校 | 5. 大学 |
|--------|--------|-------|-------------|-------|

F 8. お宅の世帯の合計月収はどれ位ですか (税金・ボーナスも含め12で割ったもの)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 20万円未満 | 2. 20～30万円 | 3. 30～40万円 |
| 4. 40～50万円 | 5. 50万円以上 | |

F 9. ご家族の状況についておうかがいします

ご主人の年齢 _____ 才

あなたの年齢 _____ 才

お子様の人数 _____ 人

第一子の年齢 _____ 才

あなたやご主人を含めて一諸に住んでいる成人の数 (子どもを除く) _____ 人

ここには記入しないで下さい

⑳

㉑

㉒ ㉓ 才

㉔ ㉕ 才

㉖ 人

㉗ ㉘ 才

㉙ ㉚ 人

—ご協力ありがとうございました—

付録4 多摩ニュータウン調査 一戸建用アンケート用紙

住宅に関する調査

① ② ③ ④ ⑤

調査にご協力をお願い

私共 東京都立大学 都立研究センター心理学班では多摩ニュータウンおよびその近辺に居住している方々について その居住のしかた・住み心地などを中心として調査することになりました。この計画の一環としてお宅様にも調査をお願いすることになりました。先日お手紙でもお願いしましたようにこの調査は学問的研究以外の目的に利用することは全くありませんし、個人のデータを問題にすることもありません。(無記名で回答していただきます)この点をご理解下さいますと御協力いただければ幸いです。

なお この調査の御回答は 奥様 にお願ひ致します。御記入下さいました調査票は 8 月末日までに御郵送いただくか 9 月__日にまた調査員が伺いました時に回収させていただきます。

—本調査の責任者—

東京都立大学 人文学部心理学研究室

東京都目黒区八雲 1 の 1 の 1

電 話 03-717-0111

加 藤 義 明

Q 1. お宅がこのお住いに入居された理由は何ですか 次の項目のうち最も大きな理由1つに○印をつけて下さい

- 1. いままでの住いより広さ、設備、間取りが良くなるので
- 2. 家賃が手頃なので
- 3. 通勤に便利なので
- 4. 会社があっせんしてくれたので
- 5. 生活環境が良いので
- 6. 自然環境が良いので
- 7. なじみのある土地なので
- 8. 何となく

ここには記入しないで下さい

⑥

⑦

Q 2. 現在のお住いと以前のお住いについていろいろな点から住み心地はいかがですか 例に従って現在のお住いと以前のお住いについて各項目(1~19)について当てはまる個所に○印をつけて下さい

	現在のお住い	→	以前のお住い	
	満 足		不 満 足	
	やや 満足		やや 不満足	
	どちら でもない		どちら でもない	
(例) 町内会・団地の管理について	_____	→	_____	
(1) 家賃または購入費について	_____	→	_____	⑧ <input type="checkbox"/> ⑲ <input type="checkbox"/>
(2) 家の広さについて	_____	→	_____	⑨ <input type="checkbox"/> ⑳ <input type="checkbox"/>
(3) 間取りについて	_____	→	_____	⑩ <input type="checkbox"/> ㉑ <input type="checkbox"/>
(4) 隣り近所の家からの騒音について	_____	→	_____	⑪ <input type="checkbox"/> ㉒ <input type="checkbox"/>
(5) 道路や外からの騒音について ...	_____	→	_____	⑫ <input type="checkbox"/> ㉓ <input type="checkbox"/>
(6) 自然環境について	_____	→	_____	⑬ <input type="checkbox"/> ㉔ <input type="checkbox"/>
(7) 眺望について	_____	→	_____	⑭ <input type="checkbox"/> ㉕ <input type="checkbox"/>
(8) 通勤時間について	_____	→	_____	⑮ <input type="checkbox"/> ㉖ <input type="checkbox"/>
(9) 買物について	_____	→	_____	⑯ <input type="checkbox"/> ㉗ <input type="checkbox"/>
(10) 公共施設(病院 郵便局等)	_____	→	_____	⑰ <input type="checkbox"/> ㉘ <input type="checkbox"/>
(11) 文化施設(集会所 公園 図書館) ...	_____	→	_____	⑱ <input type="checkbox"/> ㉙ <input type="checkbox"/>
(12) 最寄りの駅からの距離	_____	→	_____	⑲ <input type="checkbox"/> ㉚ <input type="checkbox"/>
(13) 日照について	_____	→	_____	㉑ <input type="checkbox"/> ㉛ <input type="checkbox"/>
(14) 近所づきあひについて	_____	→	_____	㉒ <input type="checkbox"/> ㉜ <input type="checkbox"/>
(15) 場所 土地柄のイメージ	_____	→	_____	㉓ <input type="checkbox"/> ㉝ <input type="checkbox"/>
(16) 防犯の安全性について	_____	→	_____	㉔ <input type="checkbox"/> ㉞ <input type="checkbox"/>
(17) 災害上の安全性について	_____	→	_____	㉕ <input type="checkbox"/> ㉟ <input type="checkbox"/>
(18) プライバシーを守る	_____	→	_____	㉖ <input type="checkbox"/> ㊱ <input type="checkbox"/>
(19) 総合的な住み心地	_____	→	_____	㉗ <input type="checkbox"/> ㊲ <input type="checkbox"/>

- Q 3. 今のお住いを出たいですか それとも出たくないですか 下の項目のうち当
てはまる番号 1 つに○印をつけて下さい また なぜそうしたかの理由も書
いて下さい

1.このままでよい 2.今の住いは出たいがこの土地には住みたい 3.今の住いを出て他の土地に移りたい 理由 ()
--

ここには記入し
ないで下さい

46

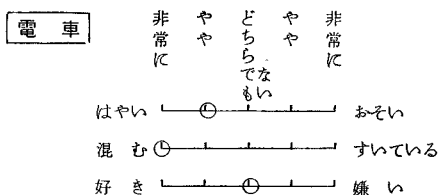
47

- Q 4. 今後東京近辺の住宅はどうあるべきだと思いますか あなたの考えに一番近
いものに 1 つ○印をつけて下さい

1.団地・マンションのような集合住宅にすべきである 2.狭くてもよいから便利なところに一戸建の住宅にすべきである 3.通勤に時間がかかっても郊外に適当な広さの一戸建にすべきである

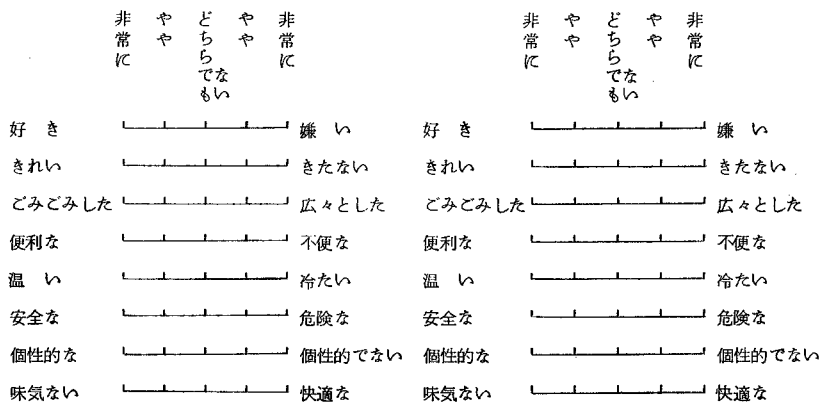
48

- Q 5. 団地と一戸建の住いについて どのようなイメージをお持ちですか 例にな
らって適当な個所に○印をつけて下さい



団 地

一 戸 建



49 50

51 52

53 54

55 56

57 58

59 60

61 62

63 64

- Q 6. あなたは「近所づきあい」についてどのようにお考えですか 以下の項目の
中から 1 つだけ選び○印をつけて下さい

1.同じ場所に住んでいる者同士が近所づきあいをするのは当然 2.何か緊急なことがあったときつきあいがないと不便だから普段から近所づ きあいはした方がよい 3.近所づきあいはわずらわしいからなるべくしない方がよい
--

65

Q 7. あなたはこの町の町内会の活動や行事に関心がありますか または参加していますか

- A 町内会 (自治会) 1.入っている 2.入っていない
- B 町内会 (自治会) 活動 1.関心あり 2.あまり関心なし
- C 町内会の行事に 1.参加する 2.時々ものによっては参加する
3.参加しない
- D 住民運動に 1.関心あり 2.関心なし
- E サークル活動に 1.参加している 2.参加していない

Q 8. あなたはこの地区で親しくつき合っている人は何人位おられますか
約 () 人

Q 9. また 多摩ニュータウンの団地内では親しくしている方がおられますか
1.いる 約 () 人 2.いない

Q 10. あなたが最も親しくしている人とつきあうようになったきっかけは何でしたか
最も大きなきっかけを1つ選んで下さい

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1.今の場所に移る以前からの友人 | 5.町内会とかサークルで一語になって |
| 2.子どもの関係で | 6.子ども以外の家族の関係で |
| 3.よく顔を合せるので | 7.共通の趣味で |
| 4.人の紹介で | 8.その他 |

Q 11. あなたは親せきづきあい 近所づきあい 友だちづきあいなどの大切さほどの位たと思えますか (Q 5.) の例に従って当てはまる個所に○印をつけて下さい

	と ても 大 切	ま あ 大 切	何 と も い え な い	あ ま り 大 切 で な い	大 切 と は 思 わ な い
親せきづきあい	-----				
近所づきあい	-----				
友だちづきあい	-----				

Q 12. あなたは次のような場合に会ったらどのようにしますか 各項目についてあなたがするだろうと思う番号に○印をつけて下さい

A 夜 道ばたにうずくまっている男の人をみかけました あなたならどうしますか

- | | | | |
|-----------|-------------|----------|---------|
| 1.声をかけてみる | 2.誰か人をよんでくる | 3.様子をみてる | 4.何もしない |
|-----------|-------------|----------|---------|

B スーパーで女の人が何かを盗んだように見えました あなたならどうしますか

- | | |
|------------------|----------------|
| 1.その人に声をかけて注意する | 2.店の人をさがして知らせる |
| 3.店の人が近くに居たら知らせる | 4.何もしない |

ここには記入しないで下さい

- 66
- 67
- 68
- 69
- 70
- 71 72
- 73 74 75
- 76

- 77
- 78
- 79
- II ①②③④⑤
- I
- ⑥
- ②
- 7
- ⑧

C以前、小銭をたてかえてくれた近所の人が ちょっとした募金にやってきました あなたならどうしますか

- 1.募金する 2.趣旨と金額をたずねて考える 3.断わる

ここには記入しないで下さい

⑨

D眼の不自由な人がホームで電車に乗ろうとしています 周囲の人は手をかそうとしません あなたならどうしますか

- 1.声をかけて手をかす 2.様子を見てあぶなそうになったら手をかす
3.何もしない

⑩

Q14. あなたは次の意見にどの程度賛成でしょうか あてはまる所に○印をつけて下さい

非 かな や ど や かな 非
常 なり や ちら 常 常
に り や ら 反 反 反
賛 賛 賛 ち 反 反 反
成 成 成 ち 対 対 対
な い

- 1.他人とはすんで知り合いになるべきである _____
- 2.他人の家庭の事は口だししない方がよい _____
- 3.不当な境遇に苦しんでいる人には たすけを
与えるべきである _____
- 4.“恩”という考えは時代遅れだと思う _____

⑪

⑫

⑬

⑭

Q15. あなたは普段人とどのようなつきあい方をしておりますか 以下の項目について当てはまるところに○印をつけて下さい

	はい	どちらとも いえなし	いいえ
1.新しい友人を作るのに骨が折れる	1	2	3
2.人とつき合うより1人で何かをする方が好きである	1	2	3
3.新しい場所や環境にすぐ慣れる方である	1	2	3
4.いつも自分で話すより聞き手にまわる方である	1	2	3
5.自分は話し好きな方だと思う	1	2	3
6.いろいろ人との交際ができなくなったらつらいと思う	1	2	3
7.ふだん人づきあいのよい方だと思う	1	2	3

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

㉑

㉒

Q16. あなたは現在の生活全般についてどの程度満足していますか

- 1.非常に満足している 2.かなり満足している 3.どちらとも云えない
4.少し不満がある 5.非常に不満である

㉓

F 1. 今のお住いについておうかがいします

- A 広 さ ____ 部屋 (但し台所を入れない) ____ m^2 (全体で)
- B 持ち家ですか または借家ですか 1.持ち家 2.借 家
- C 平家ですか または二階建ですか 1.平 家 2.二階建
- D 人居後何年ですか ____ 年
- E 建築後何年ですか ____ 年

F 2. 前に住んでいた住宅についておうかがいします

- A 前の住宅の所在地 (区・町・村まで書いて下さい)
____ (都・県) ____ (市・区・郡) ____ (町・村)
- B それはどのような種類の家でしたか

- | | | | |
|------------|-----------|------------|--------------|
| 1.親の家に同居 | 2.間借・下宿・寮 | 3.持家 | 4.民間借家 (一戸建) |
| 5.民間賃貸アパート | 6.公営住宅 | 7.公社公団賃貸住宅 | |
| 8.社宅公務員住宅 | 9.その他 | | |

F 3. 今まで団地に住まわれた経験がありますか

- | | |
|------|------|
| 1.ある | 2.ない |
|------|------|

F 4. お宅の世帯主 ご主人の勤務先はどちらですか

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1.ニュータウン内 (自宅を含む) | 2.多摩 八王子 稲城 町田市 |
| 3.府中 調布 狛江 立川 日野市 | 4.その他の三多摩 5.東京23区 |
| 6.その他東京都以外 | |

F 5. 世帯主 あるいはご主人の職業は何ですか

- | |
|---------------|
| 1. 事務系 勤め人 |
| 2. 技能 労務系勤め人 |
| 3. 技術系勤め人 |
| 4. 専門職 自由業 |
| 5. 管理職 (課長以上) |
| 6. 自営業 |
| 7. その他 () |

F 6. あなたは仕事をお持ちですか

- | | | |
|-------------|----------------|-------------------|
| 1.ない (主婦専業) | 2.決まった仕事を持っている | 3.パートで仕事をして
いる |
|-------------|----------------|-------------------|

F 7. ご主人及びあなたの最後に卒業された学校は何ですか

A ご主人

- | | | | | |
|-------|-------|------|------------|------|
| 1.小学校 | 2.中学校 | 3.高校 | 4.短期大学専門学校 | 5.大学 |
|-------|-------|------|------------|------|

B あなた

- | | | | | |
|-------|-------|------|------------|------|
| 1.小学校 | 2.中学校 | 3.高校 | 4.短期大学専門学校 | 5.大学 |
|-------|-------|------|------------|------|

ここには記入し
ないで下さい

- ㉓ ㉔ ㉕ ㉖
- m^2
- ㉗
- ㉘
- ㉙ ㉚ 年
- ㉛ ㉜ 年

- ㉝ ㉞
-

- ㉟

- ㊱

- ㊲

- ㊳

- ㊴

- ㊵

- ㊶

- F 8. お宅の世帯の合計月収はどれ位ですか (税金・ボーナスも含め12で割ったもの)

1. 20万円未満	2. 20～30万円	3. 30～40万円
4. 40～50万円	5. 50万円以上	

- F 9. ご家族の状況についておうかがいします

ご主人の年令 _____ 才

あなたの年令 _____ 才

お子様の人数 _____ 人

第一子の年令 _____ 才

あなたやご主人を含めて一語に住んでいる成人の数 (子どもを除く) _____ 人

ここには記入しないで下さい

②

③ ④

⑤ ⑥

⑦

⑧ ⑨

⑩ ⑪

—— ご協力ありがとうございました ——